教　科	国語	科　目	現代文B	学年・類型	2年生	履修形態	必履修	授業時数	週2時間

使用教科書	筑摩書房『現B337　精選現代文B　改訂版』
副教材等	いいずな書店『三訂版　TOP2500』

学習目標	1. 近代以降の様々な文章を読む能力を高める。 2. 様々な文章を読むことで，ものの見方，感じ方，考え方を深める。 3. 進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。
授業の進め方，学習方法	①小説については，舞台設定・構成・文体の特徴をつかみ，登場人物の心理の変化を読み取り，人生についての考えを深める。 ②評論では，段落相互の関係をつかみ，論理の展開や要旨を的確に捉えていく。また，具体例とその抽象化・一般化の手法を学ぶ。 　新鮮な視点と柔軟な思考で物事を捉え，物事を根本から考える姿勢を学ぶ。 ③詩・短歌・俳句などの韻文については，音読や朗読，唱和を通して詩の韻律に親しみ，詩の情景を読み取る。 　文体や修辞など表現上の特色を捉え，作者の感動の焦点を明らかにしながら作品を鑑賞する。 ④単元の順序・教材の精選は適宜状況に応じて行う。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	小説一 1　山月記	①小説を読み，自分なりの印象をまとめて表現してみる。 ②李徴の話を部分に分けて読み，「変身」をめぐる彼の考えや心情を的確に理解し， 　まとめる。 ③班に分かれて話し合い学習を行い，その中で「登場人物」「場面」 「印象的な部分やことば」に分けて，読みを深める。 ④『人虎伝』を初めとする古今の変身譚を併せ読むことで作品への理解を深める。	①文章の特色に注目することで，内容の深い理解を目指そうとしている。 ②人物の心情の推移を把握しながら文章を読んでいる。 ③漢語的な表現や語句の意味についての理解を深めている。
	1学期中間考査		
	評論一 3　思考バイアス	①私たちの理性のはたらきに知らないうちに入り込んできている 「バイアス」について理解する。 ②「バイアス」から逃れる方法について考察する。	①記述を追って検証することで，自分の考えをまとめようとしている。 ②文章を読んでまとめた自分の考えをきちんと話している。 ③目的や場面にふさわしい言葉遣いを身に付けている。
	評論二 1　実体の美と状況の美	①日本人と西欧世界の美意識の相違について理解する。 ②「実体の美」と「状況の美」の対比をとらえて考察する。 ③「状況の美」と自然をいとしむ心との結びつきを理解する。	①読んだことを基に自分の考えを深めようとしている。 ②自分の考えを整理しながら文章を読んでいる。 ③文を構成する要素の役割や相互の機能についての理解を深めている。
	1学期期末考査		
2学期	小説三 1　こころ	①小説の登場人物やストーリーを把握し，場面ごとの描写から人物の心情を読み取る。 ②「K」の告白を聞いた時の「私」の心情を読み取り， 　次第に「K」を「魔物」のように意識していく「私」の心の推移を読み取る。 ③「精神的に向上心のないものはばかだ」ということばを「K」に投げつけた 　「私」の意図を読み取る。 ④「K」の「覚悟」ということばを「私」はどのように解釈し， 　どのような行動に出たかを読み取る。 ⑤「K」の自殺に直面した「私」の心の動きと良心の呵責を読み取る。 ⑥夏目漱石の文学・思想について理解を深める。	①人物の様子や生き方をとらえながら文章を読んでいる。 ②表現の要素に注意して読む方法を身に付けている。 ③人物や情景の描写を味わいながら読もうとしている。
	2学期中間考査		
	評論三 3　文学の仕事	①文学の必要性について理解する。 ②文学の力について理解する。	①筆者の考え方を追究しながら読もうとしている。 ②筆者の考えの展開に注意しながら文章を読んでいる。 ③段落相互の働きについての理解を深めている。
	評論四 2　ファンタジー・ワールドの誕生	①論理の展開をたどり，写真撮影や買い物，あるいは観光旅行といった，今日あたりまえに行われている行為の持つ意味を考える。 ②今日の文化・文明のあり方，あるいは異文化との関わり方について，批判的かつ具体的に考察する姿勢を養う。 ③現代の諸問題を考える上でのキーワードとなる批評用語を学ぶ。	①人間の意識について，ものの見方・考え方を広め，深めようとしている。 ②筆者の思考に関連して，自分の考えを発展させながら読んでいる。 ③語彙を豊かにし，具体例や説明を理解している。
	2学期期末考査		
3学期	評論五 1　身体，この遠きもの	①「身体」と「わたし」の関係を理解する。 ②「身体」と「空間」「時間」の関係を理解する。	①読んだことを基に自分の考えを深めようとしている。 ②自分の考えを整理しながら文章を読んでいる。 ③文を構成する要素の役割や相互の機能についての理解を深めている。
	評論六 2　「である」ことと「する」こと	①『「である」ことと「する」こと』について，具体例をあげて確認しながら 　筆者の基本的な考えの枠組みを理解する。 ②各章のまとめを通して，筆者の全体的な論理展開を逐い， 　筆者の主張についての理解を深める。 ③身近な生活や日本の社会のありようについて，筆者の意見を参考にまとめ， 　論理的に考察したりそれを深めたりする。	①筆者の問題意識を把握しながら文章を読もうとしている。 ②文脈を考え，語句や表現に注意しながら文章を読んでいる。 ③文章の要点を押さえながら短くまとめる方法を身に付けている。
	学年末考査		

成績評価方法	〈授業時の反応〉教材の内容に関心を持っているか。範読・音読・指名読みの態度は積極的かなど。 〈授業時の活動〉全文を正しく音読できるか。朗読を聞いて，文章の展開や要旨を的確にとらえることができるか。 　　班ごと話し合う際，意見をまとめて発表することができるかなど。 〈プリント・ノートへの記入・課題提出・小テスト・定期考査・課題考査〉以上を総合的に判断して評価する。

教　科	国語	科　目	古典B	学年・類型	2年生・文系	履修形態	必履修	授業時数	週3時間

使用教科書	第一学習社（古B350）『高等学校改訂版古典B　古文編』／第一学習社（古B351）『高等学校改訂版古典B　漢文編』
副教材等	数研出版『読解を大切にする　体系古典文法　九訂版』／京都書房『漢文学習必携　三訂版』／桐原書店『重要古文単語315』

学習目標	1．「国語総合」の古典の学習に続き，様々な教材を取り上げ，幅広く学習することで，古典の内容を的確に捉え，理解する力を高める。 2．古典に用いられている語句の意味や用法，表現上の特色や構造への理解，文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して，国語についての認識を高め，言語感覚を養う。 3．優れた表現に親しみ，特に日本と中国の文化の関係を考える。 4．古典に表れたその時代の思想や感情に触れ，自らのものの見方，感じ方，考え方を豊かにするとともに，古典に親しむ態度を身に付ける。
授業の進め方，学習方法	①　古典としての古文を読む能力を養うために，文法の力をつけ，語彙を増やす基礎的な作業を継続的，反復的に行う。 ②　漢文については，句法の力をつけ，個々の漢字の意味の広がり，熟語の正確な理解，故事成語，四字熟語などの知識を確実に積み上げる。 ③　単なる解釈にとどまらず，総合的に古典の世界をつかむために，古典の理解に欠かせない歴史的背景や文化，制度についての知識を強化する。 ④　文化の継承という広い展望に立ち，現代と伝統との結びつきを意識することで，古典に親しみ，学ぶことの意義を深く自覚する。 ⑤　2･3年の2年間の学習に教材を配分するため，本年度の教材の精選・単元の順序変更は適宜状況に応じて行う。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	古文 説　話 『十訓抄』 『宇治拾遺物語』 歌物語 『伊勢物語』	①小説を読み，自分なりの印象をまとめて表現してみる。 ②李徴の話を部分に分けて読み，「変身」をめぐる彼の考えや心情を的確に理解し， 　まとめる。 ③班に分かれて話し合い学習を行い，その中で「登場人物」「場面」 「印象的な部分やことば」に分けて，読みを深める。 ④『人虎伝』を初めとする古今の変身譚を併せ読むことで作品への理解を深める。	・教材に興味をもって学習に取り組んでいる。 ・場面の展開を把握し，話のおもしろさを読み取ろうとしている。 ・場面の展開を把握している。 ・語句や文法に注意して現代語訳している。 ・掛詞や縁語など和歌の修辞について理解している。
	漢文 故事成語	・それぞれの故事成語の本来の意味を理解し，現代に於ける意味や用法を習得する。 ・故事成語を生んだ文を原文で読むことによって，中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し，日本文化と中国文化との関係について考える。	・漢文訓読のきまりや基本的な句法への理解を深めている。 ・故事成語とは何かを理解している。
	1学期中間考査		
	古文 歌物語 『大和物語』 漢文 史　伝	・物語を読み，古典に対する親しみを深める。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間，社会，自然などに対する思想や感情などを読み取り，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・長文の漢文に読み慣れることによって，文章の構成や展開を正しく理解する。 ・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り，自らのものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・『史記』の表現技法や修辞，文体などの特色を理解し，その巧みな描写，簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	・教材に興味をもって学習に取り組んでいる。 ・基本的な助動詞や助詞の意味・用法や，係り結びを理解している。 ・基本的な敬語について理解している。 ・重要古語や古典文法についての知識と理解を深めている。 ・平安時代の宮中の様子や，作者をとりまく人間関係について理解を深めている。 ・秦の滅亡と漢楚の攻防についての歴史的事実を理解している。 ・「四面楚歌」という言葉は現在どのような意味で用いられているかを理解している。 ・主要な助字や句法について整理し，理解を深めている。 ・『史記』の内容や作者（司馬遷），文学史的な位置づけについて理解を深めている。
	1学期期末考査		
2学期	古文 日記文学 『更級日記』 随筆 『方丈記』 『大鏡』 漢文 文　章	・文章に表れた人間，社会，自然などに対する思想や感情などを読み取り，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・文章の表現上の特色を理解し，優れた表現に親しむ。 ・作者や作中人物の，人間・社会・自然などに対する様々な考えや感情を的確に読み取ることによって，自らのものの見方，感じ方を豊かにする。 ・文章の表現技法や修辞などの特色を理解し，その優れた表現に親しむ。・作品に表れる作者の社会観，自然観を読み取り，自己の感じ方や考え方を豊かにする。	・登場人物の行動や心情から，当時の人々の生き方やものの見方・考え方について認識を深めている。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳している。 ・当時の生活や文化について理解を深めている。 ・『日記文学』の文学史的な位置づけについて理解を深めている。 ・敬語の意味と用法について整理し理解している。 ・『大鏡』の構成と内容（紀伝体・対話形式），歴史物語としての特色や，文学史的な位置づけについて理解している。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳している。 ・文章の展開に即して，作者の心情を読み取っている。 ・どの部分が韻や対句表現，起承転結などにあたるかを読み取っている。 ・重要語や句法に注意し，脚注などを参考に本文を現代語訳している。 ・登場人物の行動と心情を読み取っている。
	2学期中間考査		
	古文 物　語 『源氏物語』 『平家物語』	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間，社会，自然などに対する思想や感情などを読み取り，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し，その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し，優れた表現に親しむ。	・教材に興味をもって学習に取り組んでいる。 ・基本的な助動詞や助詞の意味・用法や，係り結びを理解している。 ・『源氏物語』の文学史的な位置づけについて理解を深めている。 ・敬語の意味と用法について整理し理解を深めている。 ・重要語句や助詞・助動詞について整理し理解を深めている。
	漢文 文　章	・文章の表現技法や修辞などの特色を理解し，その優れた表現に親しむ。・作品に表れる作者の社会観，自然観を読み取り，自己の感じ方や考え方を豊かにする。	・重要な語句や句法について整理し，理解を深めている。 ・字数の多い漢文の文章であっても，白文で読めるよう理解を深めている。
	2学期期末考査		
3学期	古文 随　筆 『枕草子』 歴史物語 『大鏡』	・作品に表れた人間，社会，自然などに対する思想や感情などを読み取り，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・「歌物語」「歴史物語」の特徴を捉える。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・文章に表れた人間，社会，自然などに対する思想や感情などを読み取り，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・作者，作品に関する文学史的知識を深める。	・切れ字や季語など，発句の決まりを理解している。 ・本文の構成を把握し，話の展開を理解している。 ・語句や文法に注意し，脚注などを参考に本文を現代語訳している。 ・登場人物の行動と心情を読み取っている。 ・敬語の意味と用法について整理し理解している。 ・『大鏡』の構成と内容（紀伝体・対話形式），歴史物語としての特色や，文学史的な位置づけについて理解している。 ・登場人物の考え方や生き方と，その背景にある社会構造について読み取っている。
	漢文 思　想 「孟子」 「韓非子」	・古代中国の思想家たちの，人間・社会・自然などに対する様々な考え方や感情を的確に読み取り，自らのものの見方，感じ方を豊かにする。 ・古代中国を代表する思想書を読むことによって，日本文化との関係について考える。	・既習の『論語』の内容と孔子の人柄や考え方について理解を深めている。 ・道家的な生き方と儒家的な生き方，法家的な生き方の違いについて考え，人間の生き方についての考えを深めようとしている。 ・再読文字や疑問・反語の用法を中心に，既習の句法について整理し，理解を深めている。
	学年末考査		

成績評価方法	〈授業時の反応〉教材の内容に関心を持っているか。範読・音読・指名読みの態度は積極的かなど。 〈授業時の活動〉全文を正しく音読できるか。朗読を聞いて，文章の展開や要旨を的確にとらえることができるか。 　　ペアや班ごとで話し合う際，意見をまとめて発表することができるかなど。 〈プリント・ノートへの記入・課題提出・小テスト・定期考査・課題考査〉以上を総合的に判断して評価する。

教　科	国語	科　目	古典B	学年・類型	2年生・理系	履修形態	必履修	授業時数	週2時間

使用教科書	第一学習社（古B350）『高等学校改訂版古典B　古文編』／第一学習社（古B351）『高等学校改訂版古典B　漢文編』
副教材等	数研出版『読解を大切にする　体系古典文法　九訂版』／京都書房『漢文学習必携　三訂版』／桐原書店『重要古文単語315』

学習目標	1．「国語総合」の古典の学習に続き，様々な教材を取り上げ，幅広く学習することで，古典の内容を的確に捉え，理解する力を高める。 2．古典に用いられている語句の意味や用法，表現上の特色や構造への理解，文章に表れた思想や感情の読み取りなどを通して，国語についての認識を高め，言語感覚を養う。 3．優れた表現に親しみ，特に日本と中国の文化の関係を考える。 4．古典に表れたその時代の思想や感情に触れ，自らのものの見方，感じ方，考え方を豊かにするとともに，古典に親しむ態度を身に付ける。
授業の進め方，学習方法	①　古典としての古文を読む能力を養うために，文法の力をつけ，語彙を増やす基礎的な作業を継続的，反復的に行う。 ②　漢文については，句法の力をつけ，個々の漢字の意味の広がり，熟語の正確な理解，故事成語，四字熟語などの知識を確実に積み上げる。 ③　単なる解釈にとどまらず，総合的に古典の世界をつかむために，古典の理解に欠かせない歴史的背景や文化，制度についての知識を強化する。 ④　文化の継承という広い展望に立ち，現代と伝統との結びつきを意識することで，古典に親しみ，学ぶことの意義を深く自覚する。 ⑤　2･3年の2年間の学習に教材を配分するため，本年度の教材の精選・単元の順序変更は適宜状況に応じて行う。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	古文 説　話 『十訓抄』 『宇治拾遺物語』 歌物語 『伊勢物語』	①小説を読み，自分なりの印象をまとめて表現してみる。 ②李徴の話を部分に分けて読み，「変身」をめぐる彼の考えや心情を的確に理解し， 　まとめる。 ③班に分かれて話し合い学習を行い，その中で「登場人物」「場面」 「印象的な部分やことば」に分けて，読みを深める。 ④『人虎伝』を初めとする古今の変身譚を併せ読むことで作品への理解を深める。	・教材に興味をもって学習に取り組んでいる。 ・場面の展開を把握し，話のおもしろさを読み取ろうとしている。 ・場面の展開を把握している。 ・語句や文法に注意して現代語訳している。 ・掛詞や縁語など和歌の修辞について理解している。
	漢文 故事成語	・それぞれの故事成語の本来の意味を理解し，現代に於ける意味や用法を習得する。 ・故事成語を生んだ文を原文で読むことによって，中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し，日本文化と中国文化との関係について考える。	・漢文訓読のきまりや基本的な句法への理解を深めている。 ・故事成語とは何かを理解している。
	1学期中間考査		
	古文 歌物語 『大和物語』 漢文 史　伝	・物語を読み，古典に対する親しみを深める。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間，社会，自然などに対する思想や感情などを読み取り，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・長文の漢文に読み慣れることによって，文章の構成や展開を正しく理解する。 ・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り，自らのものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・『史記』の表現技法や修辞，文体などの特色を理解し，その巧みな描写，簡潔な語調などの優れた表現に親しむ。	・教材に興味をもって学習に取り組んでいる。 ・基本的な助動詞や助詞の意味・用法や，係り結びを理解している。 ・基本的な敬語について理解している。 ・重要古語や古典文法についての知識と理解を深めている。 ・平安時代の宮中の様子や，作者をとりまく人間関係について理解を深めている。・秦の滅亡と漢楚の攻防についての歴史的事実を理解している。 ・「四面楚歌」という言葉は現在どのような意味で用いられているかを理解している。 ・主要な助字や句法について整理し，理解を深めている。 ・『史記』の内容や作者（司馬遷），文学史的な位置づけについて理解を深めている。
	1学期期末考査		
2学期	古文 日記文学 『更級日記』 随筆 『方丈記』 『大鏡』 漢文 文　章	・文章に表れた人間，社会，自然などに対する思想や感情などを読み取り，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・文章の表現上の特色を理解し，優れた表現に親しむ。 ・作者や作中人物の，人間・社会・自然などに対する様々な考えや感情を的確に読み取ることによって，自らのものの見方，感じ方を豊かにする。 ・文章の表現技法や修辞などの特色を理解し，その優れた表現に親しむ。 ・作品に表れる作者の社会観，自然観を読み取り，自己の感じ方や考え方を豊かにする。	・登場人物の行動や心情から，当時の人々の生き方やものの見方・考え方について認識を深めている。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳している。 ・当時の生活や文化について理解を深めている。 ・『日記文学』の文学史的な位置づけについて理解を深めている。 ・敬語の意味と用法について整理し理解している。 ・『大鏡』の構成と内容（紀伝体・対話形式），歴史物語としての特色や，文学史的な位置づけについて理解している。 ・語句や文法に注意して本文を現代語訳している。 ・文章の展開に即して，作者の心情を読み取っている。 ・どの部分が韻や対句表現，起承転結などにあたるかを読み取っている。 ・重要語や句法に注意し，脚注などを参考に本文を現代語訳している。 ・登場人物の行動と心情を読み取っている。
	2学期中間考査		
	古文 物　語 『源氏物語』 『平家物語』	・物語のおもしろさを読み味わう。 ・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・作品に表れた人間，社会，自然などに対する思想や感情などを読み取り，ものの見方， 感じ方，考え方を豊かにする。 ・和歌や歌謡の特色を理解し，その主要な作品を味読する。 ・古文に用いられている語句の意味用法及び文の構造を理解する。 ・作品の表現上の特色を理解し，優れた表現に親しむ。	・教材に興味をもって学習に取り組んでいる。 ・基本的な助動詞や助詞の意味・用法や，係り結びを理解している。 ・『源氏物語』の文学史的な位置づけについて理解を深めている。 ・敬語の意味と用法について整理し理解を深めている。 ・重要語句や助詞・助動詞について整理し理解を深めている。
	漢文 文　章	・文章の表現技法や修辞などの特色を理解し，その優れた表現に親しむ。 ・作品に表れる作者の社会観，自然観を読み取り，自己の感じ方や考え方を豊かにする。	・重要な語句や句法について整理し，理解を深めている。 ・字数の多い漢文の文章であっても，白文で読めるよう理解を深めている。
	2学期期末考査		
3学期	古文 随　筆 『枕草子』 歴史物語 『大鏡』	・作品に表れた人間，社会，自然などに対する思想や感情などを読み取り，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・「歌物語」「歴史物語」の特徴を捉える。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・文章に表れた人間，社会，自然などに対する思想や感情などを読み取り，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。 ・作者，作品に関する文学史的知識を深める。	・切れ字や季語など，発句の決まりを理解している。 ・本文の構成を把握し，話の展開を理解している。 ・語句や文法に注意し，脚注などを参考に本文を現代語訳している。 ・登場人物の行動と心情を読み取っている。 ・敬語の意味と用法について整理し理解している。 ・『大鏡』の構成と内容（紀伝体・対話形式），歴史物語としての特色や，文学史的な位置づけについて理解している。 ・登場人物の考え方や生き方と，その背景にある社会構造について読み取っている。
	漢文 思　想 「孟子」 「韓非子」	・古代中国の思想家たちの，人間・社会・自然などに対する様々な考え方や感情を的確に 読み取り，自らのものの見方，感じ方を豊かにする。 ・古代中国を代表する思想書を読むことによって，日本文化との関係について考える。	・既習の『論語』の内容と孔子の人柄や考え方について理解を深めている。 ・道家的な生き方と儒家的な生き方，法家的な生き方の違いについて 考え，人間の生き方についての考えを深めようとしている。 ・再読文字や疑問・反語の用法を中心に，既習の句法について整理し，理解を深めている。
	学年末考査		

成績評価方法	〈授業時の反応〉教材の内容に関心を持っているか。範読・音読・指名読みの態度は積極的かなど。 〈授業時の活動〉全文を正しく音読できるか。朗読を聞いて，文章の展開や要旨を的確にとらえることができるか。 　　ペアや班ごとで話し合う際，意見をまとめて発表することができるかなど。 〈プリント・ノートへの記入・課題提出・小テスト・定期考査・課題考査〉以上を総合的に判断して評価する。

教　科	地理歴史	科　目	世界史A	学年・類型	2年生・文系	履修形態	必履修	授業時数	週3時間

使用教科書	要説世界史A改訂版（山川出版社）
副教材等	グローバルワイド最新世界史図表二訂版（第一学習社）

学習目標	日本という国の世界史での位置づけを考えながら、世界の歴史を理解させる。現在進行中のグローバライゼーションについても理解させ、人類の今後の課題について具体的に考察させる。
授業の進め方, 学習方法	基本的には講義形式を中心とするが、視聴覚教材等を活用して教科書・副教材等による知識をより深める。 重要語句を暗記することに終始するような学習ではなく、歴史の枠組みや因果関係を理解したうえで個別の事象の位置づけを行うことができるような学習が望ましい。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	序章　古代文明の形成 第1章　諸地域世界の形成と交流	1　東アジア世界・内陸アジア世界 2　南アジア世界・東南アジア世界	人類の誕生から古代文明の成立について、その要因や各古代文明の特徴等を理解できているか。 古代文明の形成に端を発する諸地域世界の形成について、中国を中心とした東アジア世界・内陸アジア世界の歴史の展開・特徴を理解できているか。
	1学期中間考査		
	第1章　諸地域世界の形成と交流 第2章　結びつく世界	1　西アジア世界 2　ヨーロッパ世界 3　諸文明を結ぶネットワーク 4　アジアの諸帝国	古代文明の形成に端を発する諸地域世界の形成について、西アジア・ヨーロッパ世界の歴史の展開・特徴を理解できているか。 中国を中心とするアジア諸地域の特徴について、他地域世界との交流等を含めて理解できているか。
	1学期期末考査		
2学期	第3章　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	1　近世ヨーロッパの形成と発展 2　革命の時代の到来 3　自由主義と国民主義の進展	近代を告げるルネサンス・大航海時代・宗教改革を個々の出来事ではなく、密接に関連させて理解できているかどうか。 産業革命が現在の資本主義の隆盛につながったこと、また今日の世界の経済・社会問題の萌芽がすでに見て取れることを理解しているか。 アメリカ独立戦争・フランス革命による近代市民意識の伸長を理解できるか。
	2学期期末考査		
	第4章　アジア諸国の変貌	1　オスマン帝国の動揺と民族の自覚 2　南アジア・東南アジアの植民地化 3　東アジアの変容と日本の動向	アジア諸帝国の崩壊の過程が理解できているか。帝国主義が必然的に植民地の奪取、国際戦争につながることを理解しているか。 侵略された側のアジアなどの抵抗・独立運動の過程を理解しているか、また日欧米はそれにどのような弾圧を加えたかを理解しているか.。
	2学期期末考査		
3学期	第5章　世界戦争と平和 第6章　三つの世界の形成	1　帝国主義の成立と列強の情勢 2　世界分割とアジア・アフリカ 3　二つの世界大戦とその影響 4　冷戦期の世界と日本	列強による植民地獲得競争、帝国主義の衝突から起こった史上初の世界戦争である第一次世界大戦について理解できるか。史上初の社会主義革命の成功の原因・影響・歴史的意義を理解しているか。世界恐慌に端を発する第二次世界大戦への流れについて理解しているか。冷戦構造の形成、過程、崩壊の原因を把握しているか。
	学年末考査		

成績評価方法	定期考査・小テスト・授業態度などを総合的に評価する。

教　科	地理歴史	科　目	世界史A	学年・類型	2年生・理系	履修形態	必履修	授業時数	週2時間

使用教科書	要説世界史A改訂版（山川出版社）
副教材等	世界史A読本（山川出版社）　グローバルワイド最新世界史図表二訂版（第一学習社）

学習目標	日本を含めた世界の形成の歴史と，宗教や芸術などの人類文化の特色についての興味・関心と知識・理解を深める。 それらの興味・関心と知識・理解を，地理などの他教科への横断的な知識と現在の社会や文化につなげて考えられるようになる。 これらの学習を通じて，地域社会や国際社会において主体的に生き，よりよい社会を形成する人間としての資質を養う。
授業の進め方，学習方法	講義形式による学習を基本とするが，適宜にグループワークや演習形式による学習をおこなう。 教材は主に教科書・副教材・資料集を使用するが，視聴覚教材等や学習プリントなども併用して学習理解を促進させる。 重要語句を暗記することに終始するような学習ではなく，歴史の枠組みや流れ・因果関係を把握したうえで，歴史的事象を理解できるような学習が望ましい。

学　習　計　画			
学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	序章　古代文明の形成 第1章　諸地域世界の形成と交流	①小説を読み，自分なりの印象をまとめて表現してみる。 ②李徴の話を部分に分けて読み，「変身」をめぐる彼の考えや心情を的確に理解し，まとめる。 ③班に分かれて話し合い学習を行い，その中で「登場人物」「場面」「印象的な部分やことば」に分けて，読みを深める。 ④『人虎伝』を初めとする古今の変身譚を併せ読むことで作品への理解を深める。	人類の誕生から古代文明の成立について，その要因や各古代文明の特徴等を理解できているか。 古代文明の形成に端を発する諸地域世界の形成について，中国を中心とした東アジア世界・内陸アジア世界の歴史の展開・特徴を理解できているか。
	1学期中間考査		
	第1章　諸地域世界の形成と交流 第3章　結びつく世界	2　南アジア世界・東南アジア世界 1　西アジア世界 2　ヨーロッパ世界	古代文明の形成に端を発する諸地域世界の形成について，西アジア・ヨーロッパ世界の歴史の展開・特徴を理解できているか。 中国を中心とするアジア諸地域の特徴について，他地域世界との交流等を含めて理解できているか。
	1学期期末考査		
2学期	第2章　結びつく世界 第3章　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	3　諸文明を結ぶネットワーク 4　アジアの諸帝国 1　近世ヨーロッパの形成と発展 2　革命の時代の到来	近代を告げるルネサンス・大航海時代・宗教改革を個々の出来事ではなく，密接に関連させて理解できているかどうか。 産業革命が現在の資本主義の隆盛につながったこと，また今日の世界の経済・社会問題の萌芽がすでに見て取れることを理解しているか。 アメリカ独立戦争・フランス革命による近代市民意識の伸長を理解できるか。
	2学期中間考査		
	第3章　ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 第4章　アジア諸国の変貌	3　自由主義と国民主義の進展 1　オスマン帝国の動揺と民族の自覚	アジア諸帝国の崩壊の過程が理解できているか。帝国主義が必然的に植民地の奪取，国際戦争につながることを理解しているか。 侵略された側のアジアなどの抵抗・独立運動の過程を理解しているか，また日欧米はそれにどのような弾圧を加えたかを理解しているか.。
	2学期期末考査		
3学期	第4章　アジア諸国の変貌	2　南アジア・東南アジアの植民地 3　東アジアの変容と日本の動向	列強による植民地獲得競争，帝国主義の衝突から起こった史上初の世界戦争である第一次世界大戦について理解できるか。史上初の社会主義革命の成功の原因・影響・歴史的意義を理解しているか。世界恐慌に端を発する第二次世界大戦への流れについて理解しているか。冷戦構造の形成，過程，崩壊の原因を把握しているか。
	学年末考査		

成績評価方法	主体的・積極的に学習に取り組んでいるか，知識をどれだけ理解しているか，理解していることをどのように思考・表現できているかという観点を， 定期考査・小テスト・授業態度などを通じて総合的に評価する。

教　科	地理歴史	科　目	日本史A	学年・類型	2年生・文系	履修形態	選択	授業時数	週3時間

使用教科書	改訂版「日本史A」山川出版社
副教材等	「新編資料日本史」とうほう 「図説日本史通覧」帝国書院 「日本史重要語句Check List」啓隆社

学習目標	1. 日本前近代の歴史をふまえ，近現代史 を事実に基づき把握し，歴史の構造とその変化を理解する。 2. 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び，歴史的思考力を養う。 3. 日本の歴史を世界の動きと関連して把握し，国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につける。
授業の進め方，学習方法	客観的かつ公正な資料に基づいて，事実を正確に理解するとともに，多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を身に付けるようにする。その際，核兵器の脅威に着目し，戦争を防止し，民主的で平和な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識する。また，地理・公民・特別活動との連携や国際環境との関連を重視する中，広い視野から多面的・多角的に歴史的事象を考察する。視聴覚教材も取り入れて，歴史に興味を持たせるとともに理解を深める手段とする。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	第1章　近代への始動 1. 日本をとりまく世界の変容 2. 近世社会の動揺 第2章　開国と明治維新 1. アジアの激動と日本の開国 2. 江戸幕府の滅亡 3. 明治維新 4. 富国強兵	1_1. 列強のアジア進出・日本への接近の意図とその背景を理解する。 1_2. 農村や都市が変化して幕藩体制が動揺する中で，幕府や諸藩が行った諸改革について，その特徴を理解する。 2_1. ペリー来航から開国に至る過程と開国の影響について理解する。 2_2. 尊皇攘夷・公武合体から倒幕へと急展開する幕末の複雑な政治過程を理解する。 2_3. 大政奉還から戊辰戦争を経て廃藩置県に至る，幕末・明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。 2_4. 秩禄処分・徴兵令をなど封建的身分制の解体・近代兵制の樹立を理解する。	○幕藩体制動揺期の内外情勢や幕府や諸藩の改革について，その背景から深く理解することができる。 ○政治社会批判の思想と行動を理解する。 ○ペリーが日本に開国を迫る意図や背景を世界史的な観点から理解することができる。 ○開国とその影響を正しく理解できる。 ○倒幕に至る政局の展開を，高まる外圧や，世直し一揆・「ええじゃないか」に象徴される民衆の動向と関わらせて考察できた。 ○版籍奉還・廃藩置県によって統一的国家が形成されたことの意味に注目できた。また，岩倉使節団の出発から留守政府による国内改革推進，征韓論争・明治6年政変・西南戦争までの政治過程と考察できる。
	1学期中間考査		
	5. 初期の外交 6. 殖産興業と文明開化 第3章　立憲国家の成立 1. 自由民権運動 2. 立憲制の成立 3. 立憲政治の展開	2_5. 琉球と樺太・千島という列島の南北端に注目し，近代日本の国境確定過程を整理する。 2_6. 統一幣制・地租改正・殖産興業政策など一貫した経済近代化政策を理解し，また，地租改正反対一揆などの民衆の反応にも注目する。 3_1. 民撰議院設立の建白書に始まりる自由民権運動の目的とその展開過程を理解する。 3_2. 政府による憲法制定作業と憲法の定めた政治原理を理解し，憲法制定に続く諸法典・地方制度・軍制・教育制度の整備について整理する。 3_3. 初期議会から桂園時代の開幕にいたるまでの国内政治の動きを，政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。	○国境の画定過程で締結された初期の外交条約について，日朝修好条規が不平等条約となったことに注目できる。 ○「文明開化」の諸相から，明治日本を特徴付ける性急な西欧模倣に注目できる。 ○松方財政によるデフレーション，特に農村不況が，民権運動の急進化の背景をなしたことを理解できた。また，政府による憲法制定作業が国民に対して全く秘匿され，完成した憲法が一方的に国民に「与えられた」経緯を理解できた。 ○立憲政友会の成立から桂園時代の開幕に至る過程について，軍備の拡張の視点を踏まえて考察できた。
	1学期期末考査		
2学期	4. 日清・日露戦争 5. 産業革命と社会の変容 6. 明治の文化 第4章　第一次世界大戦と日本 1. 政党政治の展開	3_4. 不平等条約の改正と，日清・日露の両戦争を通じて東アジアに進出，列強への仲間入りを果たした経過について理解する。 3_5. 日清・日露戦争期に，資本主義経済の基礎が確立された過程を，産業革命や紡績・製糸・鉄道等主導部門の成長に着目し理解する。また，その結果生じた農民貧困や，社会・労働問題の発生について理解する。 3_6. 伝統的文化という基層のうえに欧米文化を模倣・導入を特徴として，国民的な性格を持って成立した近代文化について，「先進世界へのキャッチアップ」という視点から理解する。 4_1. 2回の護憲運動を経て，政党政治が「憲政の常道」となるに至る過程を理解する。	○日露戦争の日本の勝利がアジア諸国の民族独立や近代化運動を刺激した反面，韓国併合や満州進出が，国民の対外意識や近隣諸国の受け止め方の変化に繋がったことも考察できた。 ○国家による産業育成に着目し資本主義の確立過程を理解できた。また，寄生地主制の進展，スト勃発や足尾鉱毒事件などの社会運動の発生，対する大逆事件などの国家的弾圧に着目できた。 ○国家主義的思想の形成，実証的学問研究の発展，欧米科学技術の導入，高い就学率に着目し，国民主体の文化創造を考察できた。 ○大正政変以降，政党勢力が国民統合において中心的役割を果たすようになる事情を理解できた。
	2学期中間考査		
	2. 第一次世界大戦とワシントン体制 3. 経済・社会の変容 4. 市民文化 第5章　昭和の恐慌と満州事変 1. 昭和の恐慌 2. 政党内閣期の内政と外交 3. 満州事変 第6章　第二次世界大戦と日本 1. 日中戦争 2. 重化学工業化と経済統制 3. 第二次世界大戦と太平洋戦争	4_2. 第一次大戦・ロシア革命・ヴェルサイユ＝ワシントン体制の成立という世界史的激動に日本がどう対処したかを整理する。 4_3. 大戦景気に沸いた日本経済が，大戦終結や関東大震災によって深刻な打撃をこうむる過程を理解する。 4_4. 労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の成立に着目し，都市化や国民生活の変化を踏まえ，市民文化の特色について理解する。 5_1. 金融恐慌から金解禁を経て昭和恐慌に至る日本経済の動揺を，世界経済との関連に注意しながら理解する。 5_2. 田中・浜口両内閣期に，対外的には協調外交が，内政的には政党政治がゆきづまっていく過程を理解する。 5_3. 満州事変に始まる中国侵略の本格化と五・一五事件による政党政治の終焉という内外の激動が，連動して進行する過程を理解する。 6_1. 二・二六事件を契機に軍部の政治的発言権が増大する中，中国との全面戦争に突入していく過程を理解する。 6_2. 軍需が支えとなり日本経済が恐慌を脱出し，重化学工業化が進む一方，経済の全面的国家統制が強化される過程を理解する。 6_3. 日米交渉から開戦，緒戦段階の日本の優勢から米軍の全面的反攻，終戦に至る日米戦争の全過程を，戦争にともなう国民生活の全面的崩壊とともに整理する。	○ワシントン体制を，列強化した日本を米国中心の協調体制に組み込むものとして理解できた。また，大戦後の中国・朝鮮における民族運動の高まりに注目できた。 ○大戦後の世界的デモクラシーの風潮や日本の産業構造の変容(労働者の増大)を背景に，多方面で社会運動の高まりが見られたことを考察できた。 ○学問・芸術・出版・マスメディアなどを取り上げ，欧米文化の関わりとその浸透度，社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。 ○「震災手形」「金解禁」など，恐慌を把握するための経済用語に対する理解が深められた。また，農業恐慌に注目できた。 ○社会主義運動の高まりと，対する徹底した弾圧の動きを，緊迫する内外情勢と関連させ考察できた。また，天皇機関説問題や激しい弾圧による社会主義者の転向などを，国内の戦争反対勢力を一掃する動きとして理解できた。 ○二・二六事件後，返って軍部の政治介入が強まったのはなぜか，軍内部の勢力配置の変化に注目して考察できた。 ○国民生活や思想の国家統制の強化を具体的に考察できた。 ○なぜ日本は米国との戦争に踏みきったのか，経済的背景を含め総合的に考察することができた。 ○空襲，沖縄戦，原爆投下などに加え，アジアでの戦闘，占領地域での住民動員などにも注目できた。
	2学期期末考査		
3学期	第7章　占領下の日本 1. 占領と民主化 2. 冷戦の開始と日本の復興 第8章　経済繁栄と保守長期政権 1. 55年体制 2. 高度成長期の経済と社会 3. 経済大国 第9章　現代の世界と日本	7_1. 占領政策及び戦後の民主化政策と諸改革について，その経過と内容を理解する。また，日本国憲法制定の意義を理解する。 7_2. 東アジア情勢の変化を踏まえ，日本が独立した意義および，日米関係の継続について，当時の国際情勢のなかで理解する。 8_1. 冷戦構造の下，55年体制成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。また，雪解けの状況が生まれる中，日本の国際連合加盟，米国・ソ連・中国・韓国との関係に着目して，独立回復後の日本の動きを考察する。 8_2. 高度経済成長について，経済の国際化と技術革新などに着目して考察する。また，消費革命による社会の変貌と成長の結果である社会問題について考察する。 8_3. 高度成長が終焉後，第二次石油危機を乗り越え，経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 9. 冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について，日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。また，科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	○五大改革をはじめとするGHQによる諸政策が，日本国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたり，女性参政権の獲得と政党政治が復活する中，日本国憲法が制定された経緯と意味を理解できた。 ○中華人民共和国の成立，朝鮮戦争の勃発に着目して，経済安定九原則や警察予備隊の新設に着目し，占領政策の転換について考察できた。また，サンフランシスコ平和条約調印による日本の主権回復の意義と安全保障を米国に依存する日米安保条約の締結の意味を理解できた。 ○保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを総合的に考察できた。 ○高度経済成長の要因とその結果の明暗双方を考察できた ○ドル＝ショックや石油危機によるマイナス成長に対する行財政改革について，身近な事例を取り上げ，考察できた。 ○経済大国への道のりやバブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などが考察できた。また，世界情勢の変化で世界の平和や環境問題で日本に期待されている事柄を整理することができた。
	学年末考査		

成績評価方法	「考査」を中心に，提出課題，授業態度などを考慮して総合的に評価する。

教　科	地理歴史	科　目	日本史A	学年・類型	2年生・理系	履修形態	選択	授業時数	週2時間

使用教科書	改訂版「日本史A」山川出版社
副教材等	「新編資料日本史」とうほう 「図説日本史通覧」帝国書院 「日本史重要語句Check List」啓隆社

学習目標	1. 日本前近代の歴史をふまえ，近現代史 を事実に基づき把握し，歴史の構造とその変化を理解する。 2. 歴史を現代の課題と関連して主体的に学び，歴史的思考力を養う。 3. 日本の歴史を世界の動きと関連して把握し，国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につける。
授業の進め方，学習方法	歴史に興味を持たせる工夫をする。 関連する書物を紹介する。 史跡・遺跡を紹介する。

学　習　計　画			
学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	第1章　大日本帝国の誕生 1. 異国船の接近と幕藩体制の動揺 2. 蘭学と国学の誕生 3. 開国と社会変動 4. 尊王攘夷から倒幕へ 5. 明治維新と新政府の成立 6. 文明開化と復古 7. 地租改正と富国強兵	・近現代につながる日本の前近代の歴史を東アジアとの関わりから深める。 ・江戸時代後期の対外関係と農村地帯の変化を考えさせる。 ・蘭学の誕生や国学が各地に普及した理由をとらえさせる。 ・黒船は幕藩体制をどう揺るがしたか考えさせる。 ・薩摩藩と長州藩はなぜ手を結んだのか考えさせる。 ・年貢半減令はなぜ実現しなかったのか考えさせる。 ・文明開化は暮らしをどう変えたかとらえさせる。 ・新政府は民衆の支持を受けたのか考えさせる。	○日米修好通商条約の締結，開港による経済情勢の変化に着目し，それが幕末の政局に与えたインパクトを理解できたか。 ○幕末の政局の展開を，高まる外圧や，世直し一揆・「ええじゃないか」に象徴される民衆の動向と関わらせて考察できたか。 ○版籍奉還・廃藩置県によって封建的割拠制が克服され，統一的国家が形成されたことの意味に注目できたか。
	1学期中間考査		
	8. 新政府の近隣外交 9. 民権思想と国会開設運動 10. 私擬憲法と政党の結成 11. 松方財政秩父事件 12. 大日本帝国憲法の制定	・日本が朝鮮を開港させたねらいを考えさせる。 ・自由民権運動の広がった理由をとらえさせる。 ・国民はどんな憲法を求めたか考えさせる。 ・経済の激変と国民の生活の変化をとらえさせる。 ・憲法が秘密のうちに作られた理由を考えさせる。 ・日本の朝鮮・台湾の植民地化過程をとらえさせる。	○最初の対等条約である日清修好条規と，不平等条約である日朝修好条規の性格の相違に注目できたか。 ○思想や教育制度から生活風俗に至る「文明開化」の諸相から，明治日本を特徴付ける性急な西欧模倣に注目できたか。 ○松方財政によるデフレーション，特に農村不況が，民権運動の急進化の背景をなしたことを理解できたか。 ○政府による憲法制定作業が国民に対して全く秘匿され，完成した憲法が一方的に国民に「与えられた」経緯を理解できたか。 ○立憲政友会の成立から桂園時代の開幕に至る過程について，軍備の拡張の視点を踏まえて考察できたか。
	1学期期末考査		
2学期	13. 初期議会と日清戦争 14. 条約改正と日英同盟 15. 産業革命と社会問題 16. 日露戦争 17. 重工業の発達と財閥の成立 18. 欧米文化と伝統文化	・条約改正が実現した背景を考えさせる。 ・産業革命は何をもたらしたか考えさせる。 ・財閥はどのようにして形成されたかとらえさせる。 ・近代文化の特徴をとらえさせる。 ・大韓帝国はいかにして廃滅させられたのか考えさせる。 ・誰が桂内閣を倒したか考えさせる。 ・第1次世界大戦になぜ日本が参戦したか考えさせる。 ・成金が生まれた理由を考えさせる。 ・大戦後，社会運動が発展する理由を考えさせる。 ・大正期の文化の特徴をとらえさせる。	○大正政変以降，政党の勢力が国民統合において中心的役割を果たすようになる事情を理解できたか。 ○ワシントン体制を，列強の仲間入りを果たした日本を，アメリカ中心の協調体制に組み込むものとして理解できたか。 ○大戦後の中国・朝鮮における民族運動の高揚に注目できたか。 ○大戦後の世界的なデモクラシーの風潮や日本の産業構造の変容(労働者の増大)を背景に，多方面で社会運動の高まりが見られたことを考察できたか。 ○欧米文化の関わりとその浸透度，社会風潮との関連付けに着目して考察できたか。
	2学期中間考査		
	19. 普通選挙法と治安維持法 20. 侵略戦争への序幕 21. 満州事変と「満州国」 22. 日中戦争	・日本はなぜ孤立の道を選んだか考えさせる。 ・日本軍は中国で何をしたか考えさせる。 ・国民が戦争に総動員されていく過程を理解させる。 ・戦争は文化をどう圧迫したかをとらえさせる。 ・「大東亜共栄圏」とはどのようなものか考えさせる。 ・本土決戦準備は何をもたらしたのか考えさせる。	○恐慌の展開における不可欠事項に対する理解を深めらたか。 ○社会主義運動の高まりと，これに対する徹底した弾圧の動きを，次第に緊迫する内外情勢と関連させて考察できたか。 ○天皇機関説問題や激しい弾圧による社会主義者の大量転向などを，国内の戦争反対勢力を一掃する動きとして理解できたか。 ○軍の一部によるクーデタ(二・二六事件)が鎮圧された後に，返って軍部の政治介入が強まったのはなぜか，事件後の軍内部の勢力配置の変化に注目して考察できたか。 ○国民生活や文化の各方面に渡る国家統制の強まりを，具体的な事例に則して考察できたか。
	2学期期末考査		
3学期	23. 第2次世界大戦と日本 24. 戦時下の学問と文化 25. アジア太平洋戦争 26. 戦争末期の国民生活 27. 日本の敗戦	・日米交渉から開戦，緒戦段階の日本の優勢から米軍の全面的反攻，終戦に至る日米戦争の過程を，戦争にともなう国民生活の崩壊とともに整理する。 ・戦後の世界秩序を踏まえ，占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について，その経過と内容を理解する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ，連合国による占領が終結し，日本が独立した意義を考える。 ・冷戦秩序の下での日本国内政治について，55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ・高度経済成長について，経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ・高度成長が終焉し，保守政権が動揺する中，国際情勢の変化を踏まえて行った国内の政治対策ついて考察する。	○なぜ日本はアメリカとの戦争に踏みきったのか，経済的背景を含め，総合的に考察することができたか。 ○空襲，沖縄戦，原爆投下などに加え，アジア各地での戦闘，占領地域での住民動員などにも注目できたか。 ○労働三法・教育基本法の制定などを取り上げ，五大改革をはじめとするGHQによる諸政策が，日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気づかせたか。 ○サンフランシスコ平和条約の調印による日本の独立国としての主権回復の意義と安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を理解できたか。 ○冷戦終結後の東欧革命，55年体制が崩壊した政治状況，バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できたか。
	学年末考査		

成績評価方法	定期考査を中心に，授業に対する取り組みを等を総合的に加味して評価を行う。

教　科	地歴歴史	科　目	地理A	学年・類型	2年生・文系	履修形態	選択	授業時数	週3時間

使用教科書	高等学校新地理A(帝国書院), 新詳高等地図(帝国書院)
副教材等	新詳地理資料COMPLETE(帝国書院), ウィニングコンパス地理の整理と演習(とうほう)

学習目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し, 現代世界の地理的認識を養うとともに, 地理的な見方や考え方を培い, 国際社会に主体的に生きる人としての自覚と資質を養う。
授業の進め方, 学習方法	教科書, 副教材, ICT機器を使用しながら, 系統的に地理的な学習を進めていく。学習は教室における講義形式を主とするが, グループワークやアクティブラーニングを導入し, 生徒の主体性を高める。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	地球上の位置と国家 グローバル化が進む世界 人々の生活と地形	地球表面, 新期造山帯, 古期造山帯, 安定陸塊, 日本列島の地形の学習を通して, 世界や日本の地形の特色を理解するとともに, 日本の地形図の学習を通して地形図の読図技能を身につける。	【知識・技能】 世界の自然環境やグローバル化が進む世界について, 系統地理的に理解している。また, 地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の自然環境について, 人々の生活に与える影響について考察できる。その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の自然環境やグローバル化が進む世界について, 関心と課題意識を高め, 意欲的に追究しようとしている。
	1学期中間考査		
	地球上の位置と国家 グローバル化が進む世界 人々の生活と地形	地球表面, 新期造山帯, 古期造山帯, 安定陸塊, 日本列島の地形の学習を通して, 世界や日本の地形の特色を理解するとともに, 日本の地形図の学習を通して地形図の読図技能を身につける。	【知識・技能】 世界の自然環境やグローバル化が進む世界について, 系統地理的に理解している。また, 地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の自然環境について, 人々の生活に与える影響について考察できる。その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の自然環境やグローバル化が進む世界について, 関心と課題意識を高め, 意欲的に追究しようとしている。
	1学期期末考査		
2学期	人々の生活と気候	大気と水の大循環, モンスーン, 気象災害, 世界の気候区分の学習を通して, 気候環境や気候区分の特色を理解するとともに, 気候区分の方法を身につける。	【知識・技能】 世界の自然環境について, 系統地理的に理解している。また, 地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の自然環境について, 人々の生活に与える影響について考察できる。その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の自然環境について, 関心と課題意識を高め, 意欲的に追究しようとしている。
	2学期中間考査		
	人々の生活と産業・文化 複雑にからみ合う地球的課題 世界の環境問題 世界の食糧問題	自然環境と農業, 世界の農業地域の分布とその特色, 人々の生活と農業地域, 産業の発展の学習を通して, 産業の発展に関する地域性を理解する。 世界全体・途上国・先進国の食料問題の学習を通して, 飽食と飢え, 食料供給の地域差, 途上国の食料問題の自然的要因と人為的要因, 先進国における栄養の偏りや過剰生産について理解し, 考察する。	【知識・技能】 農業を中心とする自然環境について系統地理的に理解している。さらに, その知識を事例として取り上げた地域に適用し, 地誌的にも理解を深めている。また, 地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の環境問題や食糧問題について, 多面的・多角的に捉え, 課題解決に向けて考察し, その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 環境・食糧問題について関心と課題意識を高め, 意欲的に追究しようとしている。
	2学期期末考査		
3学期	人々の生活と産業・文化 世界の資源・エネルギー問題	資源・エネルギーの生産と消費や有限性, 資源利用の拡大, 資源ナショナリズム, 生産と消費の地域性, 資源の有限性, 輸入に依存する日本の資源に関して理解し, 考察する。 資料・統計を活用させ, 発展途上国と先進国の視点から, 人口・食料問題の地域性について考察し, 問題解決の糸口を考える。	【知識・技能】 資源・エネルギー・工業, 人口について系統地理的に理解している。さらに, その知識を事例として取り上げた地域に適用し, 地誌的にも理解を深めている。また, 地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界のエネルギー問題や人口問題について, 多面的・多角的に捉え, 課題解決に向けて考察し, その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 資源・人口問題について関心と課題意識を高め, 意欲的に追究しようとしている。
	学年末考査		

成績評価方法	【知識・技能】 系統地理や地誌の知識・技能を統合し, 様々な地理的事象や地域的特性について理解・考察する。また, 地図や図表などの資料から, 系統地理や地誌の学習内容を読み取る技能を身につける。 【思考・判断・表現】 様々な地理的事象や地域的特性について, 多面的・多角的に捉え, 考察を深める。地球規模の課題解決に向けての取り組みを把握し, その現状と未来について考察する。それらの成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地理的事象や地域についての関心と課題意識を高め, 様々な観点から意欲的に探究しようとしている。

教　科	地歴歴史	科　目	地理A	学年・類型	2年生・理系	履修形態	選択	授業時数	週2時間

使用教科書	高等学校新地理A(帝国書院), 新詳高等地図(帝国書院)
副教材等	新詳地理資料COMPLETE(帝国書院), ウィニングコンパス地理の整理と演習(とうほう)

学習目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し, 現代世界の地理的認識を養うとともに, 地理的な見方や考え方を培い, 国際社会に主体的に生きる人としての自覚と資質を養う。
授業の進め方, 学習方法	教科書, 副教材, ICT機器を使用しながら, 系統的に地理的な学習を進めていく。学習は教室における講義形式を主とするが, グループワークやアクティブラーニングを導入し, 生徒の主体性を高める。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	地球上の位置と国家 グローバル化が進む世界 人々の生活と地形	地球表面, 新期造山帯, 古期造山帯, 安定陸塊, 日本列島の地形の学習を通して, 世界や日本の地形の特色を理解するとともに, 日本の地形図の学習を通して地形図の読図技能を身につける。	【知識・技能】 世界の自然環境やグローバル化が進む世界について, 系統地理的に理解している。また, 地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の自然環境について, 人々の生活に与える影響について考察できる。その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の自然環境やグローバル化が進む世界について, 関心と課題意識を高め, 意欲的に追究しようとしている。
	1学期中間考査		
	地球上の位置と国家 グローバル化が進む世界 人々の生活と地形	地球表面, 新期造山帯, 古期造山帯, 安定陸塊, 日本列島の地形の学習を通して, 世界や日本の地形の特色を理解するとともに, 日本の地形図の学習を通して地形図の読図技能を身につける。	【知識・技能】 世界の自然環境やグローバル化が進む世界について, 系統地理的に理解している。また, 地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の自然環境について, 人々の生活に与える影響について考察できる。その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の自然環境やグローバル化が進む世界について, 関心と課題意識を高め, 意欲的に追究しようとしている。
	1学期期末考査		
2学期	人々の生活と気候	大気と水の大循環, モンスーン, 気象災害, 世界の気候区分の学習を通して, 気候環境や気候区分の特色を理解するとともに, 気候区分の方法を身につける。	【知識・技能】 世界の自然環境について, 系統地理的に理解している。また, 地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の自然環境について, 人々の生活に与える影響について考察できる。その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の自然環境について, 関心と課題意識を高め, 意欲的に追究しようとしている。
	2学期中間考査		
	人々の生活と産業・文化 複雑にからみ合う地球的課題 世界の環境問題 世界の食糧問題	自然環境と農業, 世界の農業地域の分布とその特色, 人々の生活と農業地域, 産業の発展の学習を通して, 産業の発展に関する地域性を理解する。 世界全体・途上国・先進国の食料問題の学習を通して, 飽食と飢え, 食料供給の地域差, 途上国の食料問題の自然的要因と人為的要因, 先進国における栄養の偏りや過剰生産について理解し, 考察する。	【知識・技能】 農業を中心とする自然環境について系統地理的に理解している。さらに, その知識を事例として取り上げた地域に適用し, 地誌的にも理解を深めている。また, 地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界の環境問題や食糧問題について, 多面的・多角的に捉え, 課題解決に向けて考察し, その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 環境・食糧問題について関心と課題意識を高め, 意欲的に追究しようとしている。
	2学期期末考査		
3学期	人々の生活と産業・文化 世界の資源・エネルギー問題	資源・エネルギーの生産と消費や有限性, 資源利用の拡大, 資源ナショナリズム, 生産と消費の地域性, 資源の有限性, 輸入に依存する日本の資源に関して理解し, 考察する。 資料・統計を活用させ, 発展途上国と先進国の視点から, 人口・食料問題の地域性について考察し, 問題解決の糸口を考える。	【知識・技能】 資源・エネルギー・工業, 人口について系統地理的に理解している。さらに, その知識を事例として取り上げた地域に適用し, 地誌的にも理解を深めている。また, 地図や図表から学習内容を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 世界のエネルギー問題や人口問題について, 多面的・多角的に捉え, 課題解決に向けて考察し, その成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 資源・人口問題について関心と課題意識を高め, 意欲的に追究しようとしている。
	学年末考査		

成績評価方法	【知識・技能】 系統地理や地誌の知識・技能を統合し, 様々な地理的事象や地域的特性について理解・考察する。また, 地図や図表などの資料から, 系統地理や地誌の学習内容を読み取る技能を身につける。 【思考・判断・表現】 様々な地理的事象や地域的特性について, 多面的・多角的に捉え, 考察を深める。地球規模の課題解決に向けての取り組みを把握し, その現状と未来について考察する。それらの成果を様々な媒体で表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地理的事象や地域についての関心と課題意識を高め, 様々な観点から意欲的に探究しようとしている。

教　　科	数学	科　　目	数学Ⅱ	学年・類型	２年生・文系	履修形態	必履修	授業時数	週3時間

使用教科書	数研出版「改訂版数学Ⅱ」
副教材等	数研出版「サクシード　数学Ⅱ+B」　「チャート式基礎からの数学Ⅱ＋B改訂版」

学習目標	指数・対数・三角関数及び微分・積分および数列・関数の極限の考えについて理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに，それらを活用するようにする。
授業の進め方，学習方法	教科書を中心とする授業展開。さらに問題集やプリントを用いての問題演習。定期考査前，参考書(チャート)を用いての問題演習。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	第3章　三角関数 1．一般角の三角関数 2．三角関数の加法定理	・角の概念を拡張し，一般角の三角関数を定義して三角関数の間の関係などについて理解を深める。 ・どのような角の三角関数もすべて0°から90°までの三角関数で表すことができることを学ぶ。 ・三角関数のグラフをかき，変化の特徴を考察します。また，グラフを利用して，簡単な三角方程式・三角不等式が解けるようにする。 ・三角関数の加法定理を導き，いろいろな計算や応用ができるようにする。	①弧度法を用いることで，実数変数の関数として三角関数の概念を導入できることに関心を示し，主体的に具体的な事象の解析に取り組もうとする。 ②三角関数のグラフをかくことにより弧度法の有用性を理解し，活用することができる。 ③三角関数の周期性，対称性・グラフを理解することで事象の処理に役立てることができる。 ④グラフから三角関数の性質を理解し方程式・不等式の考察に活用することができる。
	1学期中間考査		
	第4章　指数関数と対数関数 1．指数と指数関数 2．対数と対数関数	・0や負の整数について累乗を定めます。さらに累乗根を定義して，指数を有理数まで拡張する。 ・指数関数を定義し，その基本的な性質について学びます。また，指数関数のグラフがかけるようにし，さらに簡単な指数方程式，指数不等式に応用する。 ・対数を定義し，その基本的な性質を学び，対数の値を求めることや簡単な式の計算ができるようにする。 ・常用対数について取扱いの練習をする。 ・対数関数を定義し，対数関数のグラフがかける。	①指数を整数から有理数，実数へと拡張することにより，指数関数y=axを定義し，その特徴を理解する。 ②指数法則やグラフを用い，方程式や不等式を的確に計算・処理することができる。 ③対数の性質が指数法則により導くことできることを理解することで数学的な見方を育てている。 ④指数と対数の関係からそれぞれの性質や関数の理解を深め，事象の考察に活用することができる。
	1学期期末考査		
2学期	第5章　微分と積分 1．微分係数と導関数 2．導関数の応用	・関数の平均変化率の極限値として微分係数を定義して，その幾何学的な意味を学ぶ。 ・導関数の公式をつくり，整関数を微分する計算を身につける。 ・f(x)の符号と関数値の増減の関係を調べ，極値について学びます。また，その過程ではグラフがしっかりかける。 ・変域の限られた関数の最大・最小を考察できる。 ・方程式の実数解の個数や不等式の証明が，微分法の応用として扱えるようにする。	①極限を直感的にとらえることで曲線の接線の意味を明らかにし，接線の傾きの変化から曲線の増減や概形を意欲的に調べようとする。 ②接線の傾きの変化から導関数の概念を導き，微分の意味を数学的に理解することができる。 ③数理的現象を微分係数や微分の理解を通して認識しグラフとして表現することで，最大・最小などの種々の性質を的確に計算・処理することができる。 ④微分係数や微分の定義を理解することで，整関数の微分や接線の方程式の考察に活用できる知識を身につけている。
	2学期中間考査		
	3．積分 4．積分の応用 数Ⅰ・Ⅱの総復習	・不定積分を定義し，導関数の公式を使って不定積分の公式を導き，整関数についての不定積分の計算ができる。 ・定積分と原始関数との関係を理解し，整関数についての定積分が求められる。 ・曲線で囲まれた平面図形の面積が，定積分によって求められることを理解し，実際に計算できる。 数と式，2次関数の総合的な問題演習	①微分の逆演算として定義される積分に関心を示し，直線や放物線で囲まれる図形の面積などに積極的に活用しようとし，直感的・視覚的に理解し，考察することができる。 ②積分の概念が図形の計量に活用できることを理解し，的確に曲線で囲まれる図形の面積などを計算・処理することができる。
	2学期期末考査		
3学期	数Ⅰ・Ⅱの総復習	2次関数 三角比 式と証明・高次方程式 図形と方程式 指数・対数・三角関数 微分積分 の総合的な問題演習	①数学的な活動を通して，式や関数を論理的・図形的な観点でとらえ事象を扱うことに強い関心を示し，数学的な見方を養い，活用する態度を育んでいる。 ②式や関数を論理的・図形的な観点でとらえて事象を扱い，多面的・論理的な見方や考え方を深めることで，意欲をもって学ぼうとする数学的な思考が養われている。 ③式や関数を論理的・図形的な観点でとらえ事象の特性・意味を具象化し，数率的に推論し処理することで，問題を論理的に解決できる。 ④式や関数を論理的・図形的な観点でとらえてその知識を広げ，理解を深めることで，原理や法則を多面的・発展的に考察し，導くことができる。
	学年末考査		

成績評価方法	1　定期考査の成績 定期考査においては，知識・理解に偏ることなく，数学的な考え方，表現・処理をみるための問題も出題。 2　学習態度等の平常点 （1）各単元や各時限などの学習過程で，評価の観点の４項目 （1. 数学への関心・意欲・態度　2. 数学的な見方や考え方　3. 数学的な表現・処理　4. 数学についての知識・理解） について，生徒の良い点や，進歩の状況などを評価。 （2）課題用ノート・プリントの提出状況・課題テストの成績 上記，1，２の状況を踏まえ，総合的に評価する。

教　　科	数学	科　　目	数学Ⅱ	学年・類型	２年生・理系	履修形態	必履修	授業時数	週3時間

使用教科書	数研出版「改訂版数学Ⅱ」
副教材等	数研出版「サクシード　数学Ⅱ+B」「チャート式基礎からの数学Ⅱ＋B改訂版」

学習目標	指数・対数・三角関数及び微分・積分の考えについて理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに，それらを活用するようにする。
授業の進め方，学習方法	教科書を中心とする授業展開。さらに問題集やプリントを用いての問題演習。定期考査前，参考書(チャート)を用いての問題演習。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	第3章　三角関数 1．一般角の三角関数	・角の概念を拡張し，一般角の三角関数を定義して三角関数の間の関係などについて理解を深める。 ・三角関数のグラフをかき，変化の特徴を考察します。また，グラフを利用して,簡単な三角方程式・三角不等式が解けるようにする。	①弧度法を用いることで，実数変数の関数として三角関数の概念を導入できることに関心を示し，主体的に具体的な事象の解析に取り組もうとする。 ②三角関数のグラフをかくことにより弧度法の有用性を理解し，活用することができる。
	第4章　指数関数と対数関数 1．指数と指数関数 2．対数と対数関数	・0や負の整数について累乗を定めます。さらに累乗根を定義して，指数を有理数まで拡張する。 ・指数関数を定義し,その基本的な性質について学びます。また，指数関数のグラフがかけるようにし,さらに簡単な指数方程式，指数不等式に応用することができる。 ・対数を定義し，その基本的な性質を学び，対数の値を求めることや簡単な式の計算ができるようにする。 ・常用対数について取扱いの練習をする。 ・対数関数を定義し，対数関数のグラフがかけるようにする。	①指数を整数から有理数，実数へと拡張することにより，指数関数y=axを定義し，その特徴を理解する。 ②指数法則やグラフを用い，方程式や不等式を的確に計算・処理することができる。 ③対数の性質が指数法則により導くことできることを理解することで数学的な見方を育てている。 ④指数と対数の関係からそれぞれの性質や関数の理解を深め，事象の考察に活用することができる。
	2．三角関数の加法定理	・三角関数の加法定理を導き，いろいろな計算や応用ができるようにする。	③三角関数の周期性，対称性・グラフを理解することで事象の処理に役立てることができる。 ④グラフから三角関数の性質を理解し方程式・不等式の考察に活用することができる。
	1学期中間考査		
	第5章　微分と積分 1．微分係数と導関数 2．導関数の応用	・関数の平均変化率の極限値として微分係数を定義して，その幾何学的な意味を学ぶ。 ・導関数の公式をつくり，整関数を微分する計算を身につける。 ・f'(x)の符号と関数値の増減の関係を調べ，極値について学ぶ。また，その過程ではグラフがしっかりかけるようにする。 ・変域の限られた関数の最大・最小を考察できるようにする。 ・方程式の実数解の個数や不等式の証明が，微分法の応用として扱えるようにする。	①極限を直感的にとらえることで曲線の接線の意味を明らかにし，接線の傾きの変化から曲線の増減や概形を意欲的に調べようとする。 ②接線の傾きの変化から導関数の概念を導き，微分の意味を数学的に理解することができる。 ③数理的現象を微分係数や微分の理解を通して認識しグラフとして表現することで，最大・最小などの種々の性質を的確に計算・処理することができる ④整関数の微分や接線の方程式の考察に活用できる知識を身につけている。
	1学期期末考査		
2学期	3．積分 4．積分の応用	・不定積分を定義し,導関数の公式を使って不定積分の公式を導き，整関数についての不定積分の計算ができるようにします。 ・定積分と原始関数との関係を理解し，整関数についての定積分が求められるようにします。 ・曲線で囲まれた平面図形の面積が，定積分によって求められることを理解し,実際に計算できるようにします。	①微分の逆演算として定義される積分に関心を示し，直線や放物線で囲まれる図形の面積などに積極的に活用しようとし，直感的・視覚的に理解し，考察することができる。 ②積分の概念が図形の計量に活用できることを理解し，的確に曲線で囲まれる図形の面積などを計算・処理することができる。
	2学期中間考査		
	数学Ⅲ 第1章 数列の極限 1．無限数列 2．無限級数	・数列の極限の概念を確認し，収束，発散の意味がわかるようする。また，極限値の計算の基本性質を理解し，十分に活用できるようにする。さらに，無限等比数列の極限について，収束条件を理解し，極限の計算ができるようにする。 ・無限級数の意味，および無限級数の収束・発散の意味を理解し，極限の計算が正確にできるようにする。また，無限等比級数やいろいろな無限級数についての計算ができるように指導するとともに，その利用について理解させる。	①数列の極限,無限等比級数に関心をもち，問題解決に意欲的に取り組もうとする。 ②数列の極限,無限等比級数についての考え方を身に付け，具体的な事象に考察できる。 ③数列の極限,無限等比級数について，事象を数学的に考察し，表現し処理することができる。 ④数列の極限,無限等比級数について理解し，基礎的な知識を身に付けている。
	第2章 関数の極限 1．分数関数と無理関数 2．逆関数と合成関数 3．関数の極限 4．連続関数	・分数・無理関数のグラフが描け，そのグラフを利用して方程式や不等式を解くことができるようにする。 ・逆関数・合成関数を求められるようにする。 ・関数の極限の意味とその表し方及び極限値の性質について学び，指数・対数・三角関数の極限が求められるようにする。 ・関数の連続性の意味を確認し，連続関数の基本的な性質と応用について学ぶ。	①合成関数と逆関数と関数値の極限に関心をもち，問題解決に意欲的に取り組もうとする。 ②合成関数と逆関数と関数値の極限についての考え方を身に付け，具体的な事象に考察できる。 ③合成関数と逆関数と関数値の極限について，事象を数学的に考察し，表現し処理することができる。 ④合成関数と逆関数と関数値の極限について理解し，基礎的な知識を身に付けている。
	2学期期末考査		
3学期	第3章　微分法 1．導関数と微分法 2．いろいろな関数の微分法 第4章 微分法の応用 1．導関数の応用 2．第2次導関数の応用	・ 関数の微分可能性の概念を理解し，連続性との関連について学ぶ。 ・積と商の微分法の公式合・成関数や逆関数を用いて計算が正確にできるようにし，演算技法を理解するとともに，その応用についても学ぶ。 ・ sinx，cosx，tanx，logx，exの導関数を求め，いろいろな関数を微分する計算を身につける。 ・高次導関数の概念と記号を学び，第2次・第3次導関数が求められるようにする。 ・ 微分係数の幾何学的意味を再確認し，接線の方程式とその応用について学ぶ。 ・平均値の定理について，グラフでの考察を通してその意味を理解するとともに，関数の増減を調べることへの活用についても学ぶ。 ・関数の増減とf'(x)の符号との関係を再確認し，様々な関数について増減・極値・極限を調べて，グラフが描けるようにする。 ・第2次導関数を用いて，グラフの凹凸・変曲点・極値を調べる。 ・運動の速度・加速度を微分法により系統的に学ぶ。 ・導関数を用いて，1次近似式を導き関数の近似値を求められるようにする。	①関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度に関心をもち，問題解決に意欲的に取り組もうとする。 ②関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度についての考え方を身に付け，具体的な事象に考察できる。 ③関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度について，事象を数学的に考察し，表現し処理することができる。 ④関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度について理解し，基礎的な知識を身に付けている。
	学年末考査		

成績評価方法	1　定期考査の成績 定期考査においては，知識・理解に偏ることなく，数学的な考え方，表現・処理をみるための問題も出題。 2　学習態度等の平常点 (1)各単元や各時限などの学習過程で，評価の観点の4項目 (1.数学への関心・意欲・態度　2.数学的な見方や考え方　3.数学的な表現・処理　4.数学についての知識・理解) について，生徒の良い点や，進歩の状況などを評価。 (2)課題用ノート・プリントの提出状況・課題テストの成績 上記，1，2の状況を踏まえ，総合的に評価する。

教　　科	数学	科　　目	数学Ⅲ	学年・類型	２年生・理系	履修形態	必履修	授業時数	週1時間

使用教科書	数研出版「改訂版数学Ⅲ」
副教材等	数研出版「サクシード数学Ⅲ」「チャート式基礎からの数学Ⅲ改訂版」

学習目標	指数・対数・三角関数及び微分・積分の考えについて理解し，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに，それらを活用するようにする。
授業の進め方，学習方法	教科書を中心とする授業展開。さらに問題集やプリントを用いての問題演習。定期考査前，参考書(チャート)を用いての問題演習。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	数学Ⅲ 第1章 数列の極限 1．無限数列	・数列の極限の概念を確認し，収束，発散の意味がわかるようする。また，極限値の計算の基本性質を理解し，十分に活用できるようにする。さらに，無限等比数列の極限について，収束条件を理解し，極限の計算ができるようにする。	①数列の極限，無限等比級数に関心をもち，問題解決に意欲的に取り組もうとする。 ②数列の極限，無限等比級数についての考え方を身に付け，具体的な事象に考察できる。 ③数列の極限，無限等比級数について，事象を数学的に考察し，表現し処理することができる。 ④数列の極限，無限等比級数について理解し，基礎的な知識を身に付けている。
	1学期中間考査		
	2．無限級数	・無限級数の意味，および無限級数の収束・発散の意味を理解し，極限の計算が正確にできるようにする。また，無限等比級数やいろいろな無限級数についての計算ができるように指導するとともに，その利用について理解させる。	①数列の極限，無限等比級数に関心をもち，問題解決に意欲的に取り組もうとする。 ②数列の極限，無限等比級数についての考え方を身に付け，具体的な事象に考察できる。 ③数列の極限，無限等比級数について，事象を数学的に考察し，表現し処理することができる。 ④数列の極限，無限等比級数について理解し，基礎的な知識を身に付けている。
	1学期期末考査		
2学期	第2章 関数の極限 1．分数関数と無理関数 2．逆関数と合成関数 3．関数の極限 4．連続関数	・分数・無理関数のグラフが描け，そのグラフを利用して方程式や不等式を解くことができるようにする。 ・逆関数・合成関数を求められるようにする。 ・関数の極限の意味とその表し方及び極限値の性質について学び，指数・対数・三角関数の極限が求められるようにする。 ・関数の連続性の意味を確認し，連続関数の基本的な性質と応用について学ぶ。	①合成関数と逆関数と関数値の極限に関心をもち，問題解決に意欲的に取り組もうとする。 ②合成関数と逆関数と関数値の極限についての考え方を身に付け，具体的な事象に考察できる。 ③合成関数と逆関数と関数値の極限について，事象を数学的に考察し，表現し処理することができる。 ④合成関数と逆関数と関数値の極限について理解し，基礎的な知識を身に付けている。
	2学期中間考査		
	第3章　微分法 1．導関数と微分法 2．いろいろな関数の微分法	・ 関数の微分可能性の概念を理解し，連続性との関連について学ぶ。 ・積と商の微分法の公式合・成関数や逆関数を用いて計算が正確にできるようにし，演算技法を理解するとともに，その応用についても学ぶ。 ・ sinx，cosx，tanx，logx，exの導関数を求め，いろいろな関数を微分する計算を身につける。 ・高次導関数の概念と記号を学び，第2次・第3次導関数が求められるようにする。 ・ 微分係数の幾何学的意味を再確認し，接線の方程式とその応用について学ぶ。	①関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度に関心をもち，問題解決に意欲的に取り組もうとする。 ②関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度についての考え方を身に付け，具体的な事象に考察できる。 ③関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度について，事象を数学的に考察し，表現し処理することができる。 ④関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度について理解し，基礎的な知識を身に付けている。
	2学期期末考査		
3学期	第4章 微分法の応用 1．導関数の応用 2．第2次導関数の応用	・平均値の定理について，グラフでの考察を通してその意味を理解するとともに，関数の増減を調べることへの活用についても学ぶ。 ・関数の増減と$f'(x)$の符号との関係を再確認し，様々な関数について増減・極値・極限を調べて，グラフが描けるようにする。 ・第2次導関数を用いて，グラフの凹凸・変曲点・極値を調べる。 ・運動の速度・加速度を微分法により系統的に学ぶ。 ・導関数を用いて，1次近似式を導き関数の近似値を求められるようにする。	①関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度に関心をもち，問題解決に意欲的に取り組もうとする。 ②関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度についての考え方を身に付け，具体的な事象に考察できる。 ③関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度について，事象を数学的に考察し，表現し処理することができる。 ④関数の和・差・積・商の導関数，合成関数の導関数，いろいろな関数の微分，接線，関数値の増減，速度，加速度について理解し，基礎的な知識を身に付けている。
	学年末考査		

成績評価方法	1　定期考査の成績 定期考査においては，知識・理解に偏ることなく，数学的な考え方，表現・処理をみるための問題も出題。 2　学習態度等の平常点 (1)各単元や各時限などの学習過程で，評価の観点の4項目 (1.数学への関心・意欲・態度　2.数学的な見方や考え方　3.数学的な表現・処理　4.数学についての知識・理解) について，生徒の良い点や，進歩の状況などを評価。 (2)課題用ノート・プリントの提出状況・課題テストの成績 上記，1，2の状況を踏まえ，総合的に評価する。

教　科	数学	科　目	数学B	学年・類型	2年生・文系	履修形態	必履修	授業時数	週2時間

使用教科書	数学B　改訂版 （数研出版）
副教材等	サクシード数学Ⅱ＋B　改訂版 （数研出版）

学習目標	数列，ベクトルについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。 数列では，等差数列，等比数列などの数列について一般項や第n項までの和を求めたり，記号Σの意味を理解しそれを用いたりできるようにする。さらに，漸化式と数学的帰納法について理解する。 ベクトルでは平面上のベクトルおよび空間におけるベクトルの意味や演算，成分および内積などの概念を理解し，ベクトルを用いて図形の性質を考察する。
授業の進め方， 学習方法	授業は教科書を中心に行うが，理解を深めるために問題集等も積極的に使用する。 授業を大切にして学習することが必要である。 　ア　学習の基本は授業である。常に真剣な気持ちで取り組むこと。課題についてもしっかりと取り組むこと。 　イ　予習→授業→復習のサイクルが大切。

学　習　計　画			
学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	第3章　数列 1. いろいろな数列の和 2. 漸化式	和を求める上で工夫が必要な数列について学ぶ。第n項までの和を求める過程を理解し，その和を求めることができるようにする。 隣接する2項および3項または2つの数列の関係を把握し，工夫することで漸化式を用いて表された数列の一般項を導くことができるようにする。	①離散的な数量の変化から規則性を推定し一般化できることに関心を示し，積極的に活用しようとしているか。 ②論理的に類推した数列を一般項として表現し数理的事象の分析に活用することができるか。 ③種々の数列の一般項やその和を求めることができるか。 ④漸化式や自然数に関する命題の数量の変化を理解することで，帰納的な見方や考え方を養っているか。
	1学期中間考査		
	3. 数学的帰納法 第1章　平面上のベクトル 1. ベクトルとその演算	数学的帰納法の意味を理解し，それを用いて証明可能な命題を示す。証明手順が決まっているので書き方を理解させる。 平面上のベクトルについて，その意味，相等，加法，減法および実数倍について理解する。	①数列の帰納的な定義や数学的帰納法の考え方を理解することで，意欲的に事象の証明に役立てることができるか。 ②帰納的な考え方を理解し，自然数に関する命題の証明に数学的帰納法を利用して考察・処理することができるか。 ③帰納的定義や数学帰納法の原理を理解し，的確に一般項を求めたり，命題の証明に活用することができるか。 ④自然現象や事象から大きさだけでなく向きをもつ量であるベクトルの性質や意義に関心を示し，理解しようとしているか。 ⑤向きのある量を定義する意義に気付かせ，その有用性を認識し，図形や式の性質の理解に活用することができるか。
	1学期期末考査		
2学期	1. ベクトルとその演算 2. ベクトルと平面図形	ベクトルの内積の意味を理解し，平面図形の性質の考察に内積を活用することができるようにする。 位置ベクトルを活用することによって図形に関する事柄について形式的な処理ができることを理解し，平面図形の性質の考察に活用することができるようにする。	①向きのある量を定義する意義に気付かせ，その有用性を認識し，図形や式の性質の理解に活用することができるか。 ②ベクトルと座標平面上の点の関係を比較考察して理解し，形式的・合理的に演算を処理することができるか。 ③ベクトルの分解・内積・成分などの用語・記号の意味を理解し，知識として活用することができるか。
	2学期中間考査		
	3. 空間のベクトル	空間座標の概念を導入し，その意味や表し方について理解し，内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して空間ベクトルを理解する。	①空間内においても平面と同様にベクトルの性質は保存・拡張でき，図形の数学的な考察ができる見方や考え方を養っているか。 ②ベクトルと空間平面上の点の関係を比較考察して理解し，形式的・合理的に演算を処理することができるか。 ③ベクトルの分解・内積・成分などの用語・記号の意味を理解し，知識として活用することができるか。
	2学期期末考査		
3学期	3. 空間ベクトル 数列・ﾍﾞｸﾄﾙの総合演習 発展的内容	空間座標の概念を導入し，その意味や表し方について理解し，内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して空間ベクトルを理解する。 数列・ﾍﾞｸﾄﾙの総合演習および発展的内容について学習する。	①空間内においても平面と同様にベクトルの性質は保存・拡張でき，図形の数学的な考察ができる見方や考え方を養っているか。 ②ベクトルと空間平面上の点の関係を比較考察して理解し，形式的・合理的に演算を処理することができるか。 ③ベクトルの分解・内積・成分などの用語・記号の意味を理解し，知識として活用することができるか。 離散的・連続的な事象を数学的な活動を通して，代数的・論理的な観点でとらえ扱うことに強い関心を示し，解決のための意欲を養い，活用する態度を育んでいるか。また代数的・論理的な観点でとらえ整理・分析し，数学的な資質や能力を深めることで，意欲をもって学ぼうとする思考が養われているか。離散的・連続的な数量を代数的・論理的な観点でとらえ，その特性・意味を具象化して数学的に推論し分析・処理することで，問題を論理的に解決できるか。またその数量を代数的・論理的な観点でとらえ，その知識を広げ，理解を深めることで，原理や法則を多面的・発展的に考察し，導くことができるか。
	学年末考査		

成績評価方法	1　定期考査の成績 　定期考査においては，知識・理解に偏ることなく，数学的な考え方，表現・処理をみるための問題も出題する。 2　学習態度等の平常点 （1)授業時などの学習過程で，評価の観点の4項目 　（1.数学への関心・意欲・態度　2.数学的な見方や考え方　3.数学的な表現・処理　4.数学についての知識・理解） 　について，よい点および伸張の状況などを評価する。 （2)演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。 　　(1)，(2)を総合的に評価する。

教　科	数学	科　目	数学B	学年・類型	2年生・理系	履修形態	必履修	授業時数	週2時間

使用教科書	数学B　改訂版 （数研出版）
副教材等	サクシード数学Ⅱ＋B　改訂版 （数研出版）

学習目標	数列，ベクトルについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。 数列では，等差数列，等比数列などの数列について一般項や第n項までの和を求めたり，記号Σの意味を理解しそれを用いたりできるようにする。さらに，漸化式と数学的帰納法について理解する。 ベクトルでは平面上のベクトルおよび空間におけるベクトルの意味や演算，成分および内積などの概念を理解し，ベクトルを用いて図形の性質を考察する。
授業の進め方，学習方法	授業は教科書を中心に行うが，理解を深めるために問題集等も積極的に使用する。 授業を大切にして学習することが必要である。 ア　学習の基本は授業である。常に真剣な気持ちで取り組むこと。課題についてもしっかりと取り組むこと。 イ　予習→授業→復習のサイクルが大切。

学　習　計　画			
学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	第3章　数列 1．いろいろな数列の和 2．漸化式	和を求める上で工夫が必要な数列について学ぶ。第n項までの和を求める過程を理解し，その和を求めることができるようにする。 隣接する2項および3項または2つの数列の関係を把握し，工夫することで漸化式を用いて表された数列の一般項を導くことができるようにする。	①離散的な数量の変化から規則性を推定し一般化できることに関心を示し，積極的に活用しようとしているか。 ②論理的に類推した数列を一般項として表現し数理的事象の分析に活用することができるか。 ③種々の数列の一般項やその和を求めることができるか。 ④漸化式や自然数に関する命題の数量の変化を理解することで，帰納的な見方や考え方を養っているか。
	1学期中間考査		
	3．数学的帰納法 第1章　平面上のベクトル 1．ベクトルとその演算	数学的帰納法の意味を理解し，それを用いて証明可能な命題を示す。証明手順が決まっているので書き方を理解させる。 平面上のベクトルについて，その意味，相等，加法，減法および実数倍について理解する。	①数列の帰納的な定義や数学的帰納法の考え方を理解することで，意欲的に事象の証明に役立てることができるか。 ②帰納的な考え方を理解し，自然数に関する命題の証明に数学的帰納法を利用して考察・処理することができるか。 ③帰納的定義や数学帰納法の原理を理解し，的確に一般項を求めたり，命題の証明に活用することができるか。 ④自然現象や事象から大きさだけでなく向きをもつ量であるベクトルの性質や意義に関心を示し，理解しようとしているか。 ⑤向きのある量を定義する意義に気付かせ，その有用性を認識し，図形や式の性質の理解に活用することができるか。
	1学期期末考査		
2学期	1．ベクトルとその演算 2．ベクトルと平面図形	ベクトルの内積の意味を理解し，平面図形の性質の考察に内積を活用することができるようにする。 位置ベクトルを活用することによって図形に関する事柄について形式的な処理ができることを理解し，平面図形の性質の考察に活用することができるようにする。	①向きのある量を定義する意義に気付かせ，その有用性を認識し，図形や式の性質の理解に活用することができるか。 ②ベクトルと座標平面上の点の関係を比較考察して理解し，形式的・合理的に演算を処理することができるか。 ③ベクトルの分解・内積・成分などの用語・記号の意味を理解し，知識として活用することができるか。
	2学期中間考査		
	3．空間のベクトル	空間座標の概念を導入し，その意味や表し方について理解し，内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して空間ベクトルを理解する。	①空間内においても平面と同様にベクトルの性質は保存・拡張でき，図形の数学的な考察ができる見方や考え方を養っているか。 ②ベクトルと空間平面上の点の関係を比較考察して理解し，形式的・合理的に演算を処理することができるか。 ③ベクトルの分解・内積・成分などの用語・記号の意味を理解し，知識として活用することができるか。
	2学期期末考査		
3学期	3．空間ベクトル 数列・ﾍﾞｸﾄﾙの総合演習 発展的内容	空間座標の概念を導入し，その意味や表し方について理解し，内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して空間ベクトルを理解する。 数列・ﾍﾞｸﾄﾙの総合演習および発展的内容について学習する。	①空間内においても平面と同様にベクトルの性質は保存・拡張でき，図形の数学的な考察ができる見方や考え方を養っているか。 ②ベクトルと空間平面上の点の関係を比較考察して理解し，形式的・合理的に演算を処理することができるか。 ③ベクトルの分解・内積・成分などの用語・記号の意味を理解し，知識として活用することができるか。 離散的・連続的な事象を数学的な活動を通して，代数的・論理的な観点でとらえ扱うことに強い関心を示し，解決のための意欲を養い，活用する態度を育んでいるか。また代数的・論理的な観点でとらえ整理・分析し，数学的な資質や能力を深めることで，意欲をもって学ぼうとする思考が養われているか。離散的・連続的な数量を代数的・論理的な観点でとらえ，その特性・意味を具象化して数学的に推論し分析・処理することで，問題を論理的に解決できるか。またその数量を代数的・論理的な観点でとらえ，その知識を広げ，理解を深めることで，原理や法則を多面的・発展的に考察し，導くことができるか。
	学年末考査		

成績評価方法	1　定期考査の成績 定期考査においては，知識・理解に偏ることなく，数学的な考え方，表現・処理をみるための問題も出題する。 2　学習態度等の平常点 (1)授業時などの学習過程で，評価の観点の4項目 (1.数学への関心・意欲・態度　2.数学的な見方や考え方　3.数学的な表現・処理　4.数学についての知識・理解) について，よい点および伸張の状況などを評価する。 (2)演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。 (1)，(2)を総合的に評価する。

教　科	理科	科　目	化学基礎	学年・類型	2年生・文系	履修形態	必履修	授業時数	週2時間

使用教科書	東京書籍「改訂 化学基礎」(化基313)
副教材等	東京書籍「ニューアグローバル化学基礎＋化学」, 実教出版「サイエンスビュー　化学総合資料」

学習目標	〈化学基礎〉 1. 化学が物質を対象とする科学であることや, 化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 2. 化学反応の量的関係, 酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに, 日常生活や社会と関連付けて考察できる。 3. 上記の目標を達成するために探究活動を行い, 学習内容を深めるとともに, 化学的に探究する能力を高める。
授業の進め方, 学習方法	1　関心・意欲・態度を身に付けさせる　…科学的な事物・現象に関心や探究心を持たせ, 主体的にそれらを探究させるように心掛ける。 2　思考・判断力を養う　…化学的な事物・現象の中に問題を見出し, 実験・観察を行うことで, 事象を実証的, 論理的に考えたり, 分析的・総合的に考察したりして,　問題を解決し, 事実に基づいて科学的に判断できるようにする。 3　実験を的確に行う力を表現力を養う　…観察・実験の技能を習得するとともに, それらを科学的に探究する方法を身に付けさす。また, 結果を的確に表現できるようにする。 4　知識・理解を定着させる　…観察・実験を通して基本的な概念や原理・法則に理解を深めさせると同時に, 問題集を解き, 提出させることでより定着させる。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
1学期	〈物質の変化〉 酸と塩基 1　酸と塩基 2　水素イオン濃度とpH 3　中和反応と塩の生成 4　中和滴定	酸と塩基の性質　酸と塩基の定義　広い意味の酸・塩基 酸と塩基の価数 水素イオン濃度　水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成　塩の種類　塩の性質　塩の加水分解 中和反応の量的関係　中和滴定　滴定曲線　逆滴定	・酸と塩基の異なる定義や性質について関心をもち, 分類に関する価数, 強弱, 具体的な酸と塩基について意欲的に探究しようとする。 ・水素イオン濃度の目安としてのpHについて関心をもち, その定義や具体的な数値, 身近な物質のpHについて意欲的に探究しようとする。 ・中和反応について関心をもち, 反応の定義や生成する塩の性質, 量的関係, 具体的な中和滴定の方法や器具, 指示薬等について意欲的に探究しようとする	・酸と塩基の定義や性質を基に, 具体的な酸や塩基の価数や強弱について考察できる。 ・水素イオン濃度とpHの関係を基に, pHの具体的な求め方, 身近な物質のpH値さらには酸性・塩基性の基準について考察できる。 ・中和反応の定義を基に, 具体的な反応とその量的関係や生成する塩の性質についての実験, さらには中和滴定の具体的方法や滴定曲線に関して考察できる。	・酸と塩基の異なる定義について説明できるとともに, 具体的な分類方法について考察し的確に表現できる。 ・水素イオン濃度とpHの関係について説明できるとともに, 身近な物質のpH測定結果や酸性・塩基性の基準について考察し的確に表現できる。 ・中和反応の定義とその量的関係について説明できるとともに, 中和反応や塩の生成に関する実験, さらには中和滴定実験を行い, 器具の扱い方や指示薬の選択についての技能を習得し, 合わせて考察結果を的確に表現できる。	・酸と塩基の複数の定義や分類について理解・習得し, 具体的な酸や塩基の価数や強弱について基本的な知識を身に付けている。 ・水素イオン濃度とpHの関係について理解・習得し, 酸性・塩基性の定義や身の回りの具体的な物質のpH測定等の考察を通じて基本的な知識を身に付けている。 ・中和反応の量的関係について理解・習得し, 塩の生成や中和滴定の実験を通じて具体的な器具や指示薬, 滴定曲線についての基本的な知識を身に付けている。
	1学期期末考査					
2学期	酸化還元反応 1　酸化と還元 2　酸化剤と還元剤	酸化と還元　酸化数　酸化還元反応と酸化数　原子の酸化数の範囲 酸化剤と還元剤　電子の授受と酸化還元反応式　酸化剤と還元剤のはたらきの強さ　酸化剤と還元剤の量的関係	・酸化還元反応について関心をもち, 電子の授受や酸化数という観点で具体的な酸化剤や還元剤のはたらきについて意欲的に探究しようとする。	・酸化還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を基に, 具体的な酸化剤や還元剤の反応にあてはめ, 事物・現象の中の共通性について考察できる。それらに基づき酸化還元反応を論理的に考察できる。	・酸化剤と還元剤の反応に関する観察・実験を行い, その基本的操作や記録の仕方を習得するとともに, その過程や結果を考察し, 的確に表現できる。	・酸化還元反応の定義を理解・習得し, 電子の授受や酸化数の変化による説明や具体的な酸化剤・還元剤の反応に関する基本的な知識を身に付けている。
	2学期中間考査					
	3　金属の酸化還元反応 4　酸化還元反応の応用	金属のイオン化傾向 電池のしくみ	・金属のイオン化傾向について関心をもち, 空気中での反応, 水や酸との反応について意欲的に探究しようとする。 ・酸化還元反応の応用としての電池や電気分解に関心をもち, 電池の分類や具体的な電池の構造, 電気分解での反応等について意欲的に探究しようとする。	・金属のイオン化傾向を基に, いろいろな金属の反応性について考察できる。	・金属のイオン化傾向に関する観察・実験を行い, その結果を考察し的確に表現できる。 ・酸化還元反応の応用としての電池や電気分解を説明し, 観察・実験の過程や結果を考察し, 的確に表現できる。	・金属のイオン化傾向について理解・習得し, 具体的な金属の反応性について基本的な知識を身に付けている。 ・酸化還元反応の応用としての電池, 電気分解を理解し, 具体的な電池の構造や電気分解での反応について基本的な知識を身に付けている。
	2学期期末考査					
3学期	〈化学と人間生活〉 1　人間生活の中の化学 2　化学とその役割	文明は金属とともに セラミックス プラスチック 繊維 食料の確保 食品の保存 洗剤 物質のリスクとベネフィット	・物質と人間生活, 化学とその役割に関する具体的物質や社会との関連, 歴史に関心や探究心をもち, 意欲的にそれらに取り組むとともに, 科学的態度を身に付けている。	・物質と人間生活, 化学とその役割に関する具体的物質や社会との関連, 歴史の中に問題を見いだし, 観察, 実験あるいは事実の分析や総合的把握を通じて, 実証的, 論理的に考察して問題を解決し, 科学的に判断し, 得られた結果を表現することができる。	・観察, 実験の技能を習得するとともに, 物質と人間生活, 化学とその役割に関して科学的に探究する方法を身に付け, それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	・観察, 実験などを通して物質と人間生活, 化学とその役割に関して具体的物質や社会との関連, 歴史についての基本的な概念や原理・法則を理解し, 知識を身に付けている。
	学年末考査					

成績評価方法	・授業態度 ・発問に対する応答 ・実験報告書 ・定期考査, 実力考査	全体としての評価の観点及び内容 ・　関心・意欲・態度…自然の事物・現象に関心や探求心をもち, 意欲的にそれらを探究しようとするとともに, 科学的態度を身に付けている。 ・　思考・判断・表現…自然の事物・現象の中に問題を見いだし, 探究する過程を通して, 事象を科学的に考察し, 導き出した考えを的確に表現している。 ・　観察・実験の技能…観察, 実験を行い, 基本操作を習得するとともに, それらの過程や結果を的確に記録, 整理し, 自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 ・　知識・理解…自然の事物・現象について, 基本的な概念や原理・法則を理解し, 知識を身に付けている。

教　科	理科	科　目	化学基礎・化学	学年・類型	2年生・理系	履修形態	必履修	授業時数	化学基礎　週1時間	化学　週2時間

使用教科書	東京書籍「改訂 化学基礎」(化基313)，東京書籍「改訂 化学」(化学308)
副教材等	東京書籍「ニューアグローバル化学基礎＋化学」，実教出版「サイエンスビュー　化学総合資料」

学習目標	〈化学基礎〉 1．化学が物質を対象とする科学であることや，化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 2．化学反応の量的関係，酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに，日常生活や社会と関連付けて考察できる。 〈化学〉 1．気体，液体，固体の性質を探究し，物質の状態変化，状態間の平衡，溶解平衡および溶液の性質について理解するとともに，日常生活や社会と関連づけて考察できる。 2．化学変化に伴うエネルギーの出入り，反応速度および化学平衡を探究し，化学反応に関する概念や法則を理解するとともに，日常生活や社会と関連づけて考察できる。 3．無機物質の性質や反応を探究し，元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに，日常生活や社会と関連づけて考察できる。 4．上記の目標を達成するために探究活動を行い，学習内容を深めるとともに，化学的に探究する能力を高める。
授業の進め方，学習方法	1　関心・意欲・態度を身に付けさせる 科学的な事物・現象に関心や探究心を持たせ，主体的にそれらを探究させるように心掛ける。 2　思考・判断力を養う 化学的な事物・現象の中に問題を見出し，実験・観察を行うことで，事象を実証的，論理的に考えたり，分析的・総合的に考察したりして，　問題を解決し，事実に基づいて科学的に判断できるようにする。 3　実験を的確に行う力を表現力を養う 観察・実験の技能を習得するとともに，それらを科学的に探究する方法を身に付けさす。また，結果を的確に表現できるようにする。 4　知識・理解を定着させる 観察・実験を通して基本的な概念や原理・法則に理解を深めさせると同時に，問題集を解き，提出させることでより定着させる。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
1学期	〈物質の変化〉 酸と塩基 1　酸と塩基	酸と塩基の性質　酸と塩基の定義　広い意味の酸・塩基 酸と塩基の価数 酸と塩基の強弱	・酸と塩基の異なる定義や性質について関心をもち，分類に関する価数，強弱，具体的な酸と塩基について意欲的に探究しようとする。 ・水素イオン濃度の目安としてのpHについて関心をもち，その定義や具体的な数値，身近な物質のpHについて意欲的に探究しようとする。	・酸と塩基の定義や性質を基に，具体的な酸や塩基の価数や強弱について考察できる。 ・水素イオン濃度とpHの関係を基に，pHの具体的な求め方，身近な物質のpH値さらには酸性・塩基性の基準について考察できる。	・酸と塩基の異なる定義について説明できるとともに，具体的な分類方法について考察し的確に表現できる。 ・水素イオン濃度とpHの関係について説明できるとともに，身近な物質のpH測定結果や酸性・塩基性の基準について考察し的確に表現できる。	・酸と塩基の複数の定義や分類について理解・習得し，具体的な酸や塩基の価数や強弱について基本的な知識を身に付けている。 ・水素イオン濃度とpHの関係について理解・習得し，酸性・塩基性の定義や身の回りの具体的な物質のpH測定等の考察を通じて基本的な知識を身に付けている。
	2　水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度　水素イオン濃度とpH	・中和反応について関心をもち，反応の定義や生成する塩の性質，量的関係，具体的な中和滴定の方法や器具，指示薬等について意欲的に探究しようとする	・中和反応の定義を基に，具体的な反応とその量的関係や生成する塩の性質についての実験，さらには中和滴定の具体的方法や滴定曲線に関して考察できる。	・中和反応の定義とその量的関係について説明できるとともに，中和反応や塩の生成に関する実験，さらには中和滴定実験を行い，器具の扱い方や指示薬の選択についての技能を習得し，合わせて考察結果を的確に表現できる。	・中和反応の量的関係について理解・習得し，塩の生成や中和滴定の実験を通じて具体的な器具や指示薬，滴定曲線についての基本的な知識を身に付けている。
	3　中和反応と塩の生成	中和反応と塩の生成　塩の種類　塩の性質　塩の加水分解				
	4　中和滴定	中和反応の量的関係　中和滴定　滴定曲線　逆滴定				
	1学期中間考査					
	酸化還元反応 1　酸化と還元	酸化と還元　酸化数　酸化還元反応と酸化数　原子の酸化数の範囲	・酸化還元反応について関心をもち，電子の授受や酸化数という観点で具体的な酸化剤や還元剤のはたらきについて意欲的に探究しようとする。 ・金属のイオン化傾向について関心をもち，空気中での反応，水や酸との反応について意欲的に探究しようとする。 ・酸化還元反応の応用としての電池や電気分解に関心をもち，電池の分類や具体的な電池の構造，電気分解での反応等について意欲的に探究しようとする。	・酸化還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を基に，具体的な酸化剤や還元剤の反応にあてはめ，事物・現象の中の共通性について考察できる。それらに基づき酸化還元反応を論理的に考察できる。 ・金属のイオン化傾向を基に，いろいろな金属の反応性について考察できる。 ・酸化還元反応の応用としての電池，電気分解を具体例として，酸化還元反応としての規則性，共通性を見出し論理的に考察できる。	・酸化剤と還元剤の反応に関する観察・実験を行い，その基本的操作や記録の仕方を習得するとともに，その過程や結果を考察し，的確に表現できる。 ・金属のイオン化傾向に関する観察・実験を行い，その結果を考察し的確に表現できる。 ・酸化還元反応の応用としての電池や電気分解を説明し，観察・実験の過程や結果を考察し，的確に表現できる。	・酸化還元反応の定義を理解・習得し，電子の授受や酸化数の変化による説明や具体的な酸化剤・還元剤の反応に関する基本的な知識を身に付けている。 ・金属のイオン化傾向について理解・習得し，具体的な金属の反応性について基本的な知識を身に付けている。 ・酸化還元反応の応用としての電池，電気分解を理解し，具体的な電池の構造や電気分解での反応について基本的な知識を身に付けている。
	2　酸化剤と還元剤	酸化剤と還元剤　電子の授受と酸化還元反応式 酸化剤と還元剤のはたらきの強さ　酸化剤と還元剤の量的関係				
	3　金属の酸化還元反応	金属のイオン化傾向				
	4　酸化還元反応の応用	電池のしくみ				
	1学期期末考査					
2学期	〈化学反応とエネルギー〉 電池と電気分解 1　電池	電池の原理　実用電池　電池の原理　実用電池	・電池の原理と実用電池について関心をもち，共通する反応様式や具体的なしくみについて意欲的に探究しようとする。 ・電気分解の原理と具体的な水溶液の電気分解について関心をもち，共通する反応様式や具体的な反応における量的関係について意欲的に探究しようとする。	・電池の原理をもとに実用電池のしくみと反応について，一次電池・二次電池等の分類及びリチウムイオン電池や燃料電池等についても考察できる。 ・金属のイオン化傾向や除イオンの反応のしやすさ，さらに電気分解の量的関係を示すファラデーの法則をもとに，個々の反応を原理的かつ具体的に電気分解を考察できる。	・燃料電池の性能を測定し，さらに燃料の量と電池の寿命との関係を調べることで，電極での反応を説明できるとともに，結果を考察し的確に表現できる。 ・塩化銅(Ⅱ)水溶液及び塩化ナトリウム水溶液の電気分解における変化の観察を通じて，両極における反応を説明できるとともに，結果を考察し的確に表現できる。 ・硫酸銅(Ⅱ)水溶液の電気分解を用いて電気量と電極の質量変化を測定し，ファラデー定数の値を算出するとともに，その原理的過程を考察し的確に表現できる。	・電池の原理と実用電池の反応の様式やしくみについて理解・習得し，個々の具体的な反応について基本的な知識を身に付けている。 ・電気分解の原理と金属のイオン化傾向や陰イオンの反応のしやすさ，さらにはファラデーの法則について理解・習得し，個々の具体的な電気分解の反応と量的関係の考察を通じて基本的な知識を身に付けている。
	2　電気分解	電気分解　電気分解における反応				
	〈物質の状態〉 物質の状態 1　物質の三態	状態変化とエネルギー　状態変化と分子間力	・物質の三態とその変化について関心をもち，状態変化とエネルギーや分子間力との関係に関して意欲的に探究しようとする。	・物質の三態とその変化について，それに伴うエネルギーの出入りや分子間力に関する概念をもとに考察できる。 ・気体・液体間の状態変化について，気液平衡・沸騰などの現象や状態図の概念を用いて考察できる。	・水の三態変化における温度・圧力と沸騰の関係について調べる化学的方法と操作を身に付け，その結果と意味について的確に表現できる。 ・イオン・金属・分子からなる物質の性質を調べ，比べる化学的方法と操作を身に付け，その結果と意味について的確に表現できる。	・物質の三態変化について，エネルギー・温度・分子間力の影響を理解・習得し，その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身に付けている。 ・気体・液体間の状態変化について，気液平衡・沸騰の現象や状態図を理解・習得し，その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身に付けている。
	2　気体・液体間の状態変化	気体の圧力　気液平衡と蒸気圧　沸騰　状態図				
	〈気体の性質〉 1　気体	ボイルの法則　シャルルの法則　ボイル・シャルルの法則	・ボイル・シャルルの法則について関心をもち，絶対温度や絶対零度の概念をもとに気体の圧力・体積・温度の関係について意欲的に探究しようとする。 ・気体の状態方程式，混合気体の性質，理想気体と実在気体について関心をもち，気体定数・分圧の法則・分子間力と分子の大きさという考え方を用いてその概念形成を意欲的に探究しようとする。	・ボイル・シャルルの法則を用いて，気体の圧力・体積・絶対温度の関係及び状態変化について考察できる。 ・気体の状態方程式，混合気体の分圧の法則，理想気体と実在気体についての概念をもとに，気体の分子量，混合気体の状態方程式，実在気体における分子間力と分子の大きさの影響等について考察できる。	・気体の状態方程式を用いて揮発性物質の分子量を測定する化学的方法と操作を身に付け，その結果と意味について的確に表現できる。 ・液体どうしの混ざり方方を分子の極性の有無の観点で調べる化学的方法と操作を身に付け，その結果と意味について的確に表現できる。	・ボイル・シャルルの法則の意味を理解・習得し，その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身に付けている。 ・気体の状態方程式・分圧の法則・理想気体と実在気体の意味を理解・習得し，その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身に付けている。
	2　気体の状態方程式	気体の状態方程式　気体の分子量　混合気体　理想気体と実在気体				
	2学期中間考査					

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
2学期	〈溶液の性質〉 1 溶解 2 希薄溶液の性質 3 コロイド	溶解のしくみ　固体の溶解度　溶液の濃度　気体の溶解度 蒸気圧降下と沸点上昇　凝固点降下　沸点上昇・凝固点降下と分子量 浸透圧　浸透圧と分子量 コロイド粒子　コロイド溶液の性質　コロイド溶液の種類	・溶解とそのしくみ，固体や気体の溶解度，希薄溶液が示す沸点上昇・凝固点降下・浸透圧について関心をもち，それらの現象を説明する原理や概念について意欲的に探究しようとする。 ・コロイド溶液とその性質について関心をもち，コロイド粒子の分類や特性について意欲的に探究しようとする。	・溶解とそのしくみ，固体や気体の溶解度，希薄溶液が示す沸点上昇・凝固点降下・浸透圧について，水和・溶媒や溶質分子の極性・溶解度曲線・蒸気圧降下・凝固・溶解平衡等の概念を用いて考察できる。 ・コロイド溶液とその性質について，コロイド粒子の大きさと分子の大きさとの違いによる特性として考察できる。	・溶液の冷却曲線を調べること，およびその方法を用いて希薄溶液の凝固点降下を測定することで溶媒のモル凝固点降下を求める化学的方法と操作を身に付ける。その上で，凝固点降下の測定値を用いて，種々の溶質について溶液中での状態を推測する探究的方法を身に付け，その結果を的確に表現できる。 ・コロイド溶液の性質を調べる化学的方法と操作を身に付け，その結果と意味について的確に表現できる。	・b固体や気体の溶解度と温度や圧力との関係，沸点上昇や凝固点降下と溶質の分子量，浸透圧と溶質の分子量の関係について，その意味を理解・習得し，その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身に付けている。 ・bコロイド粒子と溶液の性質ついて理解・習得し，その具体的な例について基本的な知識を身に付けている。
	〈固体の構造〉 1 結晶 2 金属結晶の構造	結晶の種類 金属結晶の構造	・金属結晶の構造や種類について関心をもち，単位格子や充填率等について意欲的に探究しようとする。 ・イオン結晶の構造や種類について関心をもち，単位格子やイオン半径と結晶の安定性等について意欲的に探究しようとする。 ・共有結合の結晶や分子結晶の構造・種類，さらには非晶質について関心をもち，その他の結晶との類似点や相違点についても意欲的に探究しようとする。	・金属結晶の種類と粒子の配置について，充填率や原子半径と単位格子の一辺の長さ等の考え方を用いて考察できる。 ・イオン結晶の種類と単位格子の関係について，イオン半径と結晶の安定性という考え方を用いて考察できる。 ・共有結合の結晶・分子結晶・非晶質について，その他の結晶構造に関する考え方をもとに考察できる。	・球を用いて金属結晶のモデルを作り，球の重なり方により生じる構造の違いを説明できるとともに，単位格子の種類について的確に表現できる。 ・イオン結晶，共有結合の結晶，分子結晶の単位格子モデルについて，それらの構造の類似点と相違点について観察し，その結果と意味について的確に表現できる。	・金属結晶の単位格子の構造と種類について理解・習得し，原子半径と単位格子の一辺の長さの関係や充填率について基本的な知識を身に付けている。 ・イオン結晶の単位格子の構造と種類について理解・習得し，その安定性についても基本的な知識を身に付けている。 ・共有結合の結晶・分子結晶・非晶質の構造について理解・習得し，それらの特性についても基本的な知識を身に付けている。
	2学期期末考査					
3学期	3 イオン結晶の構造 4 そのほかの結晶と非晶質	イオン結晶の構造 分子結晶　共有結合の結晶				
	〈化学反応と熱・光〉 1 反応熱と熱化学方程式 2 ヘスの法則 3 光とエネルギー	化学反応と熱の出入り　熱化学方程式　いろいろな反応熱 ヘスの法則　生成熱と反応熱の関係　結合エネルギー 光とエネルギー　物質と光	・化学反応に伴う熱・光の生成について関心をもち，熱の発生・吸収やその表し方，反応熱の種類等について意欲的に探究しようとする。 ・反応熱と反応経路の関係に関心をもち，ヘスの法則や生成熱・結合エネルギーと反応熱の量的関係について意欲的に探究しようとする。	・熱化学方程式が示す化学反応と反応熱の考え方をもとに，エネルギーとしてのいろいろな反応熱に関して状態変化も含み考察できる。 ・光のエネルギーという考え方を理解するとともに，生成熱や結合エネルギーという概念をもとに，反応経路と反応熱の関係をヘスの法則を用いて考察できる。	・具体的な発熱反応と吸熱反応の温度変化を調べることで，「化学カイロ」や「冷却パック」のしくみを考察し，さらにヘスの法則を検証することで，観察・実験を通して正確に測定できる技能を身に付け，その考察結果を的確に表現できる。	・反応熱を正確に表現できる熱化学方程式について理解・習得し，いろいろな反応熱について正しく表現できる基本的な知識を身に付けている。 ・エネルギーとしての光も含めてヘスの法則の意味するところを理解・習得し，その応用としての生成熱や結合エネルギーの扱い方について基本的な知識を身に付けている。
	〈化学反応の速さ〉 1 化学反応の速さ 2 反応速度を変える条件	速い反応と遅い反応　反応の速さの表し方 反応速度と濃度　反応速度と温度　反応速度と触媒	・化学反応の速さとその決定要因について関心をもち，その表し方や濃度・温度・触媒の作用について意欲的に探究しようとする。 ・化学反応のしくみについて関心をもち，衝突頻度，活性化エネルギーと触媒の関係について意欲的に探究しようとする。	・化学反応の速さに与える濃度・温度・触媒・固体の表面積・光の作用の影響について，反応速度式や反応速度定数等の考え方や実験データをもとに考察できる。 ・触媒の作用を含む化学反応のしくみについて，反応速度式・活性化エネルギー等の考え方を用いて考察できる。	・過酸化水素水の分解反応による酸素発生量を測定し，その反応速度を算出するとともに，その結果を考察し的確に表現できる。 ・反応速度と温度の関係を調べるために，濃度を一定にして反応温度を変化させて反応速度を測定する化学的方法を身に付け，さらに測定結果と反応速度式とを関連付けて速度定数について探究的に考察し，その結果を的確に表現できる。	・化学反応速度の意味と表現方法，濃度・温度・触媒・固体表面積等の影響を理解・習得し，具体的な反応についてあてはめる基本的な知識を身に付けている。 ・触媒の作用を含む反応のしくみについて理解・習得し，具体的な反応にあてはめる基本的な知識を身に付けている。
	学年末考査					

成績評価方法	・授業態度 ・発問に対する応答 ・実験報告書 ・定期考査，実力考査	全体としての評価の観点及び内容 ・ 関心・意欲・態度…自然の事物・現象に関心や探求心をもち，意欲的にそれらを探究しようとするとともに，科学的態度を身に付けている。 ・ 思考・判断・表現…自然の事物・現象の中に問題を見いだし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。 ・ 観察・実験の技能…観察，実験を行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 ・ 知識・理解…自然の事物・現象について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。

教　科	理科	科　目	物理	学年・類型	2年生・理系	履修形態	選択	授業時数	週2時間

使用教科書	改訂版　物理　（数研出版）
副教材等	四訂版　リードα　物理　（数研出版）

学習目標	さまざまな物理現象を取り扱い，観察，実験などを通して物理的に考察する能力と態度を身につける。 物理現象を説明するためのことば（物理量）を覚え，物理量と物理量の間にある関係（物理法則）を理解し，それらを使って物理現象を説明していく。
授業の進め方，学習方法	物理現象を理解するための物理量や物理法則の説明が授業の中心となる。また，理解を深めるために適宜，問題演習や実験などを行う。提出課題としては，問題集（リードα物理）の考査範囲の問題を考査ごとに解答する。問題集（良問の風）の問題を週ごとに範囲を決めて解答していく。授業では受け身にならず，自ら物理現象を説明できるように積極的に手と頭を働かせて取り組んでいかなければならない。 2年，3年と継続履修。 興味関心に応じて選択すること。

学　習　計　画			
学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	第3編　波 第2章　音の伝わり方 2. 音のドップラー効果 第3章　光 1. 光の性質 2. レンズと鏡	波源と観測者とが相対的に運動しているときには，観測者する振動数は波源本来の振動数とは異なることを理解する。音源が動く場合には，観測者の運動に関係なく波長が変化することを理解する。 光は電磁波の一種であることや，光の速さについて学ぶ。反射・屈折の法則が成りたつこと，全反射の機構を理解する。光の分散，散乱，偏光についても学ぶ。 レンズがつくる像を図および実験を通して理解する。また，写像公式との関係を理解する。球面鏡がつくる像は，レンズの場合と似た手順で求められることを学び，像の作図方法，写像公式を理解する。	ドップラー効果の原理を理解し，公式が使える。 波動の一種である光波に興味・関心を持つ。 屈折の法則，全反射を理解する。 光の進み方の作図ができ，像の位置を求めることができる。
	1学期中間考査		
	第3編　波 第3章　光 3. 光の干渉と回折 第1編　力と運動 第2章　剛体 1. 剛体にはたらく力のつりあい 2. 剛体にはたらく力の合力と重心	ヤングの実験，薄膜による光の干渉などを題材に，光の干渉について理解する。 剛体にはたらく力の効果は，力の大きさと向きのほかに，作用線の位置により決まることを理解する。また，剛体にはたらく力がつりあうためには，剛体が並進運動と回転運動をし始めないことに留意する。 剛体にはたらく力の合力をさまざまな場合に応じて求められるようにする。また，重心についても理解する。	光の干渉の原理を理解する。 さまざまな光の干渉現象を理解し，物理量を求めることができる。 剛体の運動について興味・関心を持つ。 力のモーメントを理解する。 力のモーメントを用いて剛体の重心を求められる。 力のモーメントを用いて剛体のつり合いが説明できる。
	1学期期末考査		
2学期	第1編　力と運動 第3章　運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数 第4章　円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力	運動の法則から，力積と運動量の関係，運動量保存則を理解する。反発係数は衝突直後と直前における2物体の相対速度の大きさの比で表されることを理解する。 等速円運動の速さ，角速度，回転数，周期などの語句を理解する。これらの間に成りたつ関係を学習し，向心加速度，向心力についても理解する。 ある物体を異なる立場（座標系）で観測するときには，異なった運動が観測され，異なった式が立てられる場合があることを認識させる。慣性力が働く場合について理解する。	運動量という物理量に興味・関心を持つ。 運動量と力積，運動量保存の法則を使用して，物体の運動を説明できる。 等速円運動の諸要素を認識し，相互の関係を理解している。 慣性力を使って運動を解釈できる。
	2学期中間考査		
	第1編　力と運動 第4章　円運動と万有引力 3. 単振動 4. 万有引力	等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解する。単振動は放物運動と並んで，正射影の運動を扱う重要な例である。物体にはたらく力が，常に振動の中心へ向かって引き戻す向きであり，その大きさが振動の中心からの距離に比例するとき，物体の運動は単振動であることを理解する。 質量をもつ物体間にはたらく万有引力について理解する。惑星の運動を物理的に理解する。	単振動の運動を理解する。 万有引力の法則を理解する。
	2学期期末考査		
3学期	第2編　熱と気体 第1章　気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化	ボイル・シャルルの法則，理想気体の状態方程式を学ぶ。 気体分子の運動を力学的に扱って気体の圧力を表す式を導く。この式と理想気体の状態方程式とから，気体分子の運動エネルギーの平均値が絶対温度に比例することを導く。 内部エネルギーが絶対温度に比例することを理解する。熱力学第一法則を理解する。熱力学第一法則の式を用いて定積変化，定圧変化，等温変化，断熱変化を理解する。	気体の状態について興味・関心を持つ。 気体の状態を，状態方程式から求めることができる。気体の圧力を分子運動から導くことができる。 熱サイクルから気体の状態を計算できる。
	学年末考査		

成績評価方法	・定期考査 ・考査課題，長期休業中の課題 ・授業の取り組み（授業態度，出席状況，学習活動への参加状況） などから総合的に評価する

教　科	理科	科　目	生物	学年・類型	2年生・理系	履修形態	選択	授業時数	週2時間

使用教科書	改訂版　生物　（数研出版）
副教材等	四訂版　リードα生物（数研出版）

学習目標	1　1学年で学習した生物基礎の基本的事象を発展させて，近年の研究・知見を織り交ぜながら学習し，知識を身につける。 2　興味・関心・意欲を持って学習に取り組み，自然界の原理・原則を導き出す考え方を身につけ，学習した上で生じる疑問を探究する姿勢を身につける。 3　観察・実験を通して科学的な自然観を養う。 4　生物現象を学習することにより，自分自身や他者の命の営みを大切にし，他の生物に対しても，生命を尊重する精神を養う。
授業の進め方，学習方法	1　自作プリントを用いて授業を進め，自然現象への興味や疑問を抱きながら学習に取り組む。 2　プリントが終わるごとに各自で学習事項のチェックを行い，一時間ごとに基本的知識の定着を図る。 3　単元が終わるごとに観察・実験を行い，基本的な実験機器の操作や観察の技能を習得し，レポート提出を通して表現力を身につける。 4　定期考査前ごとに，問題演習を中心に取り組み，読解力・考察力を身につける。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	第1章　細胞と分子 1.生体を構成する物質 2.タンパク質の構造と性質 3.酵素のはたらき 4.細胞の構造 5.物質輸送とタンパク質	・生体，細胞を構成する物質についての基本的知識を知る。 ・特に重要なはたらきを担う「タンパク質」について，働きごとに主たる例を取り上げつつ，性質を学習する。 ・細胞内構造について，生物基礎の内容の復習と発展的内容を学習する。 ・生体膜の性質と関与して，物質輸送に関連する膜タンパク質，モータータンパク質について学習する。	＜関心・意欲・態度＞ 授業導入の問いや，発展的内容に対する学習意欲で評価する。 ＜科学的思考力＞ 物質輸送などの現象を様々な物質，細胞小器官のはたらきと関連付けて考察する内容で評価する。 ＜技能・表現力＞ 上記の考察を記述できるか，授業中の小問等で判断する。 ＜知識・理解＞ 定期テストの成績，小テストの成績，で判断する。
	1学期中間考査		
	第1章　細胞と分子 6.情報伝達・認識とタンパク質 第2章　代謝 1.代謝とエネルギー 2.呼吸と発酵	・情報伝達，免疫に関するタンパク質のはたらきを，生物基礎の復習を行いつつ発展的内容を学習する。 ・代謝反応の基本的内容，「呼吸」のメカニズムについて，化学分野を交えながら学習する。	＜関心・意欲・態度＞ 授業導入の問いや，発展的内容に対する学習意欲，実験に対する姿勢等で評価する。 ＜科学的思考力＞ 呼吸に関する実験レポートの考察する内容で評価する。 ＜技能・表現力＞ 上記の実験における機器の操作や考察のまとめ方等で判断する。 ＜知識・理解＞ 定期テストの成績，小テストの成績，実験レポートで判断する。
	1学期期末考査		
2学期	第2章　代謝 3.光合成 4.窒素同化 第3章　遺伝情報の発現 1.DNAの構造と複製 2.遺伝情報の発現	・「光合成」のメカニズムについて，化学分野を交えながら学習する。 ・「窒素同化」について，様々な微生物の関与を交えて学習する。 ・遺伝物質について，生物基礎の復習を行いつつ発展的内容を学習する。 ・「セントラルドグマ」の原則について，関与する物質を交えて具体的に学習する。	＜関心・意欲・態度＞ 授業導入の問いや，発展的内容に対する学習意欲，実験に対する姿勢等で評価する。 ＜科学的思考力＞ 光合成に関する実験レポートの考察する内容で評価する。 ＜技能・表現力＞ 上記の実験における機器の操作や考察のまとめ方等で判断する。 ＜知識・理解＞ 定期テストの成績，小テストの成績，実験レポートで判断する。
	2学期中間考査		
	第3章　遺伝情報の発現 3.遺伝子の発現調節 4.バイオテクノロジー 第4章　生殖と発生 1.遺伝子と染色体 2.減数分裂と遺伝情報の分配 3.遺伝子の多様な組み合わせ 4.動物の配偶子形成と受精	・遺伝子発現の内容理解を図りつつ，遺伝子発現調節のメカニズムについて学習する。 ・遺伝子組換え技術や，PCR法など基本的なバイオテクノロジー技術に加え，近年の研究を紹介し学習する。 ・染色体について，生物基礎の復習を行いつつ発展的内容を学習する。 ・配偶子形成で重要になる「減数分裂」，それに伴う遺伝子の組み合わせについて学習する。 ・基本的な遺伝の計算について，演習を通して学習する。	＜関心・意欲・態度＞ 授業導入の問いや，発展的内容に対する学習意欲，演習に取り組む姿勢等で評価する。 ＜科学的思考力＞ 遺伝内容の計算演習における考察内容で評価する。 ＜技能・表現力＞ 上記の演習における考察のまとめ方等で判断する。 ＜知識・理解＞ 定期テストの成績，小テストの成績で判断する。
	2学期期末考査		
3学期	第4章　生殖と発生 5.初期発生の過程 6.細胞の分化と形態形成 7.植物の配偶子形成と発生	・ウニとカエルについて発生過程を比較して考察する。 ・ヒトの発生過程について，生命倫理にも言及し学習する。 ・形態形成が起こるしくみを最新の研究成果をもとに論述する。 ・植物の配偶子形成・発生に関して，動物との違いを紹介しつつ学習する。	＜関心・意欲・態度＞ 生殖・発生，反応に関する授業・実験に臨む態度や取り組みで評価する。 ＜科学的思考力＞ ウニの発生過程に関する実験レポートの考察内容で評価する。 ＜技能・表現力＞ 上記の実験観察における実験機器の操作や観察技能の習得で判断する。 ＜知識・理解＞ 定期テストの成績，小テストの成績，実験レポートで判断する。
	学年末考査		

成績評価方法	授業態度　・　発問評価　・　定期考査　・　実験レポート をもとに評価の観点にもとづいて総合的に評価する。

教　科	外国語	科　目	cⅡA	学年・類型	2年生	履修形態	必履修	授業時数	週2時間

使用教科書	Perspective English Communication Ⅱ　New Edition（第一学習社）
副教材等	英単語ターゲット1900（旺文社）

学習目標	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。具体的には，教科書に採用された最新の社会的・科学的な問題を読み聞きすることで，概要や要点をとらえ，話し合ったり意見の交換をする。また，そのテーマに沿って自分の考えを簡潔に書くことを目標とする。
授業の進め方，学習方法	・ホームルーム単位での一斉授業。 ・生徒には予習を求め，それに基づき，難解な部分や重要な事項の解説を行う。 ・理解や学習内容の定着をはかるため，随時，問題演習も取り入れる。英単語の復習として，副教材を使って毎週小テストを行う。

学　習　計　画			
学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	Lesson 1 A Hunger for Knowledge Lesson 2 The Mission of the Olympics	＜題材内容とねらい＞ ・独学で発電方法を学んだ少年に関する英文を読んで，学習することの意義について考えさせる。 ・オリンピックの歴史や意義，ソチオリンピックでの感動的なエピソードとオリンピックにおける「おもてなし」の精神について読み取らせる。 ＜文型・文法事項＞ ・With …などが条件を表す仮定法，同格のthatを理解し，文を作ることができる。 ・未来完了形，完了動名詞を理解し，文を作ることができる。	・今までに学んできたことの活用方法を自ら考え，意見を書くことができる。 ・オリンピックの意義と世界平和・国際協調の関連について自ら考え，発表することができる。
	1学期中間考査		
	Lesson 3 Amazing Tool Users Lesson 4 Khaled Reshad —— A Doctor Across Borders	＜題材内容とねらい＞ ・動物による道具使用の多様性とその特徴を読み取らせる。 ・レシャード・カレッド医師が医師を志すきっかけとなった2つの出来事や，日本・アフガニスタン両国での医療活動について読み取らせる。 ＜文型・文法事項＞ ・仮定法を含む表現，否定語＋倒置を理解し，文を作ることができる。 ・be to-不定詞，前置詞＋関係代名詞を理解し，文を作ることができる。	・動物の知能についての興味付けを行い，その他の例について話し合うことができる。 ・レシャード医師が考える真の医療について理解し，医療のあり方について意見をまとめることができる。
	1学期期末考査		
2学期	Lesson 5 Lost and Wasted Lesson 6 Taro's Suns Look Toward World Peace	＜題材内容とねらい＞ ・食糧損失・食糧廃棄の理由やそれが及ぼす影響について読み取らせる。 ・岡本太郎氏の来歴や，戦争に対する考え方が自らの作品に与えた影響を読み取らせる。 ＜文型・文法事項＞ ・独立分詞構文，複合関係詞を理解し，文を作ることができる。 ・動名詞の意味上の主語，動名詞（受動態）を理解し，文を作ることができる。	・食糧損失や食糧廃棄を減らすための世界での取り組みを知り，そうしたことに関して私たちの日常生活でできることについて意見を発表することができる。 ・岡本氏の創作についての興味付けを行い，また，それが世界に与えている影響について書くことができる。
	2学期中間考査		
	Lesson 7 Machu Picchu —— City in the Clouds Lesson 8 The Little Rock Nine	＜題材内容とねらい＞ ・マチュピチュ発見までの経緯と，遺跡群の特徴を読み取らせる。 ・1950年代の人種差別についてのアメリカ国民の考えと，Little Rock Central High Schoolでの出来事が社会に与えた影響を読み取らせる。 ＜文型・文法事項＞ ・完了形の分詞構文，主語が条件を表す仮定法を理解し，文を作ることができる。 ・with＋名詞＋分詞など，仮定法現在を理解し，文を作ることができる。	・世界の遺跡の発掘物の所有権について考え，発表することができる。 ・人種差別問題への興味付けを行い，その問題について議論することができる。
	2学期期末考査		
3学期	Lesson 9 A Long Voyage for Friendship	＜題材内容とねらい＞ ・エルトゥールル号遭難事件とトルコ航空機による日本人救出劇の関連性，山田寅次郎の活躍，エルトゥールル号発掘調査について読み取らせる。 ＜文型・文法事項＞ ・進行形（受動態），完了不定詞を理解し，文を作ることができる。	・エルトゥールル号遭難事件をきっかけにはじまった日本とトルコの交流をもとに，真の国際交流について自ら考え発表することができる。
	学年末考査		

成績評価方法	・定期テスト(課題考査も含む)での得点。 ・小テストでの得点。 ・日常の授業への参加状況，課題提出等による家庭学習の状況も考慮する。

教　科	外国語	科　目	cⅡB	学年・類型	2年生・人文数理 探究類型理系以外	履修形態	必履修	授業時数	週2時間

使用教科書	LOOP① 最新の入試傾向に基づく英語長文問題集　啓隆社
副教材等	

学習目標	英語の4技能の力を向上させることを目標とするが，その中でも読むことに最も力点を置いた学習展開をする。その上で発音に注意して話すこと，論理的な文章を書くことなどへの応用をはかる。
授業の進め方，学習方法	まず速読をし，すばやく内容の把握や筆者の主張をとらえる練習をする。その上で細かな表現の仕方や文章の展開の仕方を理解していく。設問を解き，知識を定着させ，また復習として要約する訓練も積み重ねる。

学　習　計　画

学　期	単　元		評価の観点
1学期	Lesson 1	犬と人間の絆ーオキシトシンとの関係	文章全体を読み，筆者の考えや主張がどれほど理解できているかを評価の対象とする。また，語彙や表現を理解し，応用できるかも重視する。
	Lesson 2	レストランの歴史	
	Lesson 3	嘘の兆候	
	1学期中間考査		
	Lesson 4	日本の旅行・観光競争力指数	文章全体を読み，筆者の考えや主張がどれほど理解できているかを評価の対象とする。また，語彙や表現を理解し，応用できるかも重視する。
	Lesson 5	宇宙に住むこと	
	Lesson 6	エジソンの発明品	
	Lesson 7	ホテルへの苦情	
	1学期期末考査		
2学期	Lesson 8	動物のためのプログラム	文章全体を読み，筆者の考えや主張がどれほど理解できているかを評価の対象とする。また，語彙や表現を理解し，応用できるかも重視する。表現の応用については，まとまった文章での表現ができるかに特に重きを置く。
	Lesson 9	ラジオ番組によるパニック	
	Lesson 10	秘密の質問の欠陥	
	2学期中間考査		
	Lesson 11	問題解決のための技術	文章全体を読み，筆者の考えや主張がどれほど理解できているかを評価の対象とする。また，語彙や表現を理解し，応用できるかも重視する。表現の応用については，まとまった文章での表現ができるかに特に重きを置く。
	Lesson 12	2人の心理学者	
	Lesson 13	コンピュータのある未来	
	Lesson 14	類人猿ルーシー	
	2学期期末考査		
3学期	Lesson 15	空から降ってくる生物	文章全体を読み，筆者の考えや主張がどれほど理解できているかを評価の対象とする。また，語彙や表現を理解し，応用できるかも重視する。表現の応用については，自分の意見・考えを英語で表現できるかに特に重きを置く。
	Lesson 16	言語の習得過程	
	Lesson 17	低予算の宣伝戦略	
	Lesson 18	サイの密猟	
	学年末考査		

成績評価方法	定期考査を評価の主材料とする。課題考査やレポート類も加味する。考査は内容把握力を見ることを重視した問題とする。

教　科	外国語	科　目	cⅡB	学年・類型	2年生・人文数理探究類型理系	履修形態	必履修	授業時数	週1時間

使用教科書	LOOP①　最新の入試傾向に基づく英語長文問題集　啓隆社
副教材等	

学習目標	英語の4技能の力を向上させることを目標とするが，その中でも読むことに最も力点を置いた学習展開をする。その上で発音に注意して話すこと，論理的な文章を書くことなどへの応用をはかる。
授業の進め方，学習方法	週1単位の授業であるため，速読を中心とした学習展開となり，すばやく内容の把握や筆者の主張をとらえる練習をする。設問を解き，表現や語彙を定着させ，家庭学習として要約する訓練を行う。

学　習　計　画			
学　期	単　元		評価の観点
1学期	Lesson 1	犬と人間の絆－オキシトシンとの関係	文章全体を読み，筆者の考えや主張がどれほど理解できているかを評価の対象とする。また，語彙や表現を理解し，応用できるかも重視する。
	Lesson 2	レストランの歴史	
	Lesson 3	嘘の兆候	
	1学期中間考査		
	Lesson 4	日本の旅行・観光競争力指数	文章全体を読み，筆者の考えや主張がどれほど理解できているかを評価の対象とする。また，語彙や表現を理解し，応用できるかも重視する。
	Lesson 5	宇宙に住むこと	
	Lesson 6	エジソンの発明品	
	Lesson 7	ホテルへの苦情	
	1学期期末考査		
2学期	Lesson 8	動物のためのプログラム	文章全体を読み，筆者の考えや主張がどれほど理解できているかを評価の対象とする。また，語彙や表現を理解し，応用できるかも重視する。表現の応用については，まとまった文章での表現ができるかに特に重きを置く。
	Lesson 9	ラジオ番組によるパニック	
	Lesson 10	秘密の質問の欠陥	
	2学期中間考査		
	Lesson 11	問題解決のための技術	文章全体を読み，筆者の考えや主張がどれほど理解できているかを評価の対象とする。また，語彙や表現を理解し，応用できるかも重視する。表現の応用については，まとまった文章での表現ができるかに特に重きを置く。
	Lesson 12	２人の心理学者	
	Lesson 13	コンピュータのある未来	
	Lesson 14	類人猿ルーシー	
	2学期期末考査		
3学期	Lesson 15	空から降ってくる生物	文章全体を読み，筆者の考えや主張がどれほど理解できているかを評価の対象とする。また，語彙や表現を理解し，応用できるかも重視する。表現の応用については，自分の意見・考えを英語で表現できるかに特に重きを置く。
	Lesson 16	言語の習得過程	
	Lesson 17	低予算の宣伝戦略	
	Lesson 18	サイの密猟	
	学年末考査		

成績評価方法	定期考査を評価の主材料とする。課題考査やレポート類も加味する。考査は内容把握力を見ることを重視した問題とする。

教　科	外国語	科　目	英語表現Ⅱ	学年・類型	2年生	履修形態	必履修	授業時数	週2時間

使用教科書	Vision Quest English Expression Ⅱ Ace（啓林館）
副教材等	

学習目標	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。
授業の進め方，学習方法	モデル文を聞き，リスニング問題に取り組み，イントネーション，リズム，発音等を学び，機能面から見た様々な表現を知る等の演習から始め，次に文法事項の解説を行う。さらに理解を深めるために，問題演習やペアでの言語活動などを行う。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	Part 1 Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5	英文を作るうえで，適切な主語を決定すること，動詞を適切に選択して様々な文型の文を作る方法，他動詞を選択し，目的語を適切に用いて第3文型と第4文型の文を作る方法，自動詞・他動詞を選択し，補語を適切に用いて第2文型と第5文型の文を作る方法を学ぶ。	①関心・意欲・態度：コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。 ②表現の能力：事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。 ③理解の能力：英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。 ④知識・理解：英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。
	1学期中間考査		
	Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10	使役動詞・知覚動詞を使い，第5文型の文を作る方法，直接話法・間接話法を用いて，他者の発言内容を伝える方法を学び，日本語を直訳するのではなく，状況に応じて適切な時制や表現を選ぶこと，受動態と能動態の違い，日本語との表現の違いを学ぶ。	①関心・意欲・態度：コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。 ②表現の能力：事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。 ③理解の能力：英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。 ④知識・理解：英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。
	1学期期末考査		
2学期	Lesson 11 Lesson 12 Lesson 13 Lesson 14 Lesson 15 Lesson 16	現在の事実や過去の事実と異なる内容を示す仮定法の使い方，話し手の気持ちや判断を表す助動詞の使い方，形容詞と，不定詞・分詞など名詞を修飾する形容詞的用法，前置詞句や不定詞・分詞など名詞を修飾する形容詞的用法，関係詞が名詞を修飾する用法，前置詞句や不定詞・分詞などの副詞的用法を学ぶ。	①関心・意欲・態度：コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。 ②表現の能力：事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。 ③理解の能力：英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。 ④知識・理解：英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。
	2学期中間考査		
	Lesson 17 Lesson 18 Lesson 19 Lesson 20 Part 2 Lesson 1	接続詞が導く節の副詞的用法，原級・比較級を使った比較表現，最上級とそれを表す比較表現，様々な否定の形と部分否定，代用表現や省略，つなぎの言葉を適切な用い方を学ぶ。	①関心・意欲・態度：コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。 ②表現の能力：事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。 ③理解の能力：英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。 ④知識・理解：英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。
	2学期期末考査		
3学期	Lesson 2 Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6 Lesson 7	列挙・順序を表す論理的なパラグラフ，対比・類似を表す論理的なパラグラフ，原因・理由および結果を表す論理的なパラグラフ，文章の要点をつかみ，要約文の書き方を学ぶ。	①関心・意欲・態度：コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。 ②表現の能力：事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。 ③理解の能力：英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解している。 ④知識・理解：英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。
	学年末考査		

成績評価方法	・定期考査 ・考査課題，長期休業中の課題 ・授業内での小テスト ・授業の取り組み（授業態度，出席状況，学習活動への参加状況） 以上，から総合的に評価する

教　科	保健体育	科　目	体育	学年・類型	2年生	履修形態	必履修	授業時数	文系　週3時間 理系　週2時間

使用教科書	なし
副教材等	なし

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに，自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能身につけるようにする。 ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力するなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
授業の進め方，学習方法	生徒が運動領域・種目の選択を行う選択制授業を展開している。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1,2,3学期	Ⅰ・ソフトボール・バレーボール ・ハンドボール ・バスケットボール・テニス ※（柔道・ダンス） （上記5種目から選択， ※は選択必修） Ⅱ・水泳・ダンス・陸上競技 （上記3種目から選択） Ⅲ・ソフトボール・バレーボール ・ハンドボール ・バスケットボール・テニス ※（柔道・ダンス） （上記5種目から選択， ※は選択必修） Ⅳ・テニス・卓球・サッカー ・バレーボール・ラグビー （上記5種目から選択） Ⅴ・テニス・卓球・サッカー ・ラグビー・バドミントン （上記5種目から選択）	●柔道 武道の歴史・礼法・受け身(各種)・体さばき 「技」(固め・投げ・寝技)・打ち込み・かかり練習乱取・試合　など ●ダンス 基本的な運動要素（走る・伸びる・縮む・ジャンプ・ターン・転がる） リズムダンス・イメージダンス（即興） 創作ダンス・発表会の企画，運営 ●ソフトボール スローイング・キャッチング・バッティング・フットワーク ゲーム運営(戦術)　など ●ハンドボール ドリブル・シュート（ジャンプ・ステップ）・各種パス 各種フォーメーション(戦術)　など ●テニス サーブ・ボレー・ストローク・ハーフコートラリー ミニゲーム(シングルス・ダブルス)　など ●卓球 フォアハンド・バックハンド・ストローク・サーブ シングルスゲーム・ダブルスゲーム　など ●水泳 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ クイックターン・メドレー　など ●バドミントン ストローク（オーバーヘッド・サイドアーム・アンダーアーム） サービス（ロング・ショート）・フライト（ハイクリア・ドロップ・スマッシュ・ドライブなど） 簡易ゲーム・ゲーム　など ●サッカー 各種トラップ・各種パス・各種シュート・3対1，4対1， 5対5のミニゲーム，ゲーム　など ●バスケットボール ドリブル・シュート（ジャンプ・レイアップ）・各種パス 各種フォーメーション(戦術)　など ●陸上競技 ハードル走，跳躍（走幅跳，走高跳），投擲（円盤投） ●ラグビー（タグラグビー） 各種パス，1対1，2対1，サインプレー，ミニゲームなど	【関心・意欲・態度】 各種目それぞれについての関心を持ち，意欲的に取り組む態度が身についているか。 【思考・判断】 各種目それぞれについての特性を理解し，それぞれの課題に応じて練習できているか。実践の場において成果をだすための的確な判断ができているか 【運動の技能】 各種目それぞれにおける基本的な技能を習得しているか。それらの技能を実践の場において総合的に発揮することができるか。 【知識・理解】 各種目それぞれの特性を理解し，言語技術を活用して説明することができるか。競技方法やルールについて理解しているか。

成績評価方法	学習活動（次の①～④の4観点で評価），技能テスト，課題レポート（学習ノート含む），出欠席状況を総合的に評価します。 ①各運動に意欲を持って取り組んでいるか。積極的に取り組んでいるか。 ②的確に状況を判断し，互いに協力して安全に運動を行うことができるか。 ③能力を最大限に発揮し運動を行っているか。それぞれの運動種目の技能を身につけることができるか。 ④それぞれの運動種目の特性，ルールを理解し行動することができるか。Ⅰ～Ⅵのそれぞれの種目ごとに①～④の4観点で総合的に評価します。

教　科	保健体育	科　目	保健	学年・類型	2年生	履修形態	必履修	授業時数	週1時間

使用教科書	現代高等保健体育（大修館）
副教材等	なし

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し，改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに，技能を身に付けるようにする。 ②健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ③生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し，明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。
授業の進め方，学習方法	教科書や，パワーポイントを使用して，それぞれの単元の内容を講義していく。授業時のレポートやノートの提出がある。単元の内容に関連した時事問題を教材として扱うこともある。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	2 生涯を通じる健康 ①思春期と健康 ②性意識と性行動の選択 ③結婚生活と健康 ④妊娠・出産と健康 ⑤家族計画と人工妊娠中絶 ⑥加齢と健康 ⑦高齢者のための社会的とりくみ	・生涯を通じて健康に生きていくために，現在，私たちが生きていく上でどのような健康問題があるのか，またそれらにどのように対処していけばよいのかを学ぶ。 ・性意識や性的欲求は男女で異なることを理解し，異性を尊重する態度を身につける。 ・性に関する正しい情報を選び，自分の意志と判断で行動することを理解する。 ・妊娠中や出産後の健康管理の重要性や配慮すべきことについて理解を深める。 ・望まない妊娠をしないことを学ぶ。 ・加齢にともない，心身が変化することを形態面および機能面から理解できるようにする。 ・わが国の世界一の高齢化の早さの現状を知り，高齢者のための社会的取り組みについて学習する。	2　生涯を通じる健康 【関心・意欲・態度】 生涯の各段階における健康の課題に応じた自己の健康管理の必要性及び保健・医療機関の活用について関心を持ち，仲間と協力して資料を集めたり，意見を交換したり，課題について調べたりして，意欲的に学習しようとしているか。 【思考・判断】 生涯の各段階における健康の課題や自己管理の重要性，保健・医療の機関の活用について，自分の学習や経験を元にしたり，資料や仲間の意見や考えなどを参考にしたりして，課題の設定や解決の方法を考え，判断できるか。 【知識・理解】 生涯の各段階における健康課題や保健・医療機関の活用などについて理解し，課題解決に役立つ知識を身につけているか。
	1学期期末考査		
2学期	2　生涯を通じる健康 ⑧保健制度と保健サービスの活用 ⑨医療制度と医療費 ⑩医療機関と医療サービスの活用 3 社会生活と健康 ①大気汚染と健康 ②水質汚濁と健康 ③土壌汚染と健康 ④健康被害の防止と環境対策	・生涯を通じて健康を保持増進するためには，保健・医療制度は欠くことのできないものである。そのために，保健・医療制度のしくみや活用のしかたを学ぶ。 ・私たちの生命には大気・水・土壌などの環境が必要不可欠である。これらの環境が汚染されたら，私たちの健康におよぶ影響は大きい。これらの環境を主体的に守るとりくみを考えるようにする。	3　社会生活と健康 【関心・意欲・態度】 環境と健康，環境と食品の健康，労働と健康について関心を持ち，仲間と協力して資料を集めたり，意見を交換したり，課題について調べたりして，意欲的に学習しようとしているか。 【思考・判断】 環境と健康，環境と食品の保健，労働と健康について，自分の学習や経験をもとにしたり，資料や仲間の意見や考え方などを参考にしたりして，課題の設定や解決の方法を考え，判 断できるか。 【知識・理解】 学校や地域，労働の環境を健康に適したものにすること，食品の安全性を確保する必要が あることを理解し，課題解決に役立つ知識を身につけているか。
	2学期期末考査		
3学期	3 社会生活と健康 ⑤環境衛生活動のしくみと働き ⑥食品衛生活動のしくみと働き ⑦食品と環境の保健と私たち ⑧働くことと健康 ⑨労働災害・職業病と健康 ⑩健康的な職業生活	・環境や食品にかかわってどのような保健活動がおこなわれているのか，私たちはどのような役割を果たすべきか学ぶ。 ・現代における職業病や労働災害について理解し，職場での総合的な安全管理や，人びととの積極的な健康づくりの方法などについて学ぶ。	
	学年末考査		

成績評価方法	評価の方法は，定期考査・授業の観察・レポートやノート提出・発表などを通じて評価する。平常の学習活動全般から得られる資料に基づき， 教科「保健」の目標及び内容に沿って，多面的・総合的に行う。

教　科	情報	科　目	情報の科学	学年・類型	2年生	履修形態	必履修	授業時数	週2時間

使用教科書	改訂版　高等学校　情報の科学（数研出版）
副教材等	改訂版　情報の科学サポートノート

学習目標	(1) 情報の収集・処理・発信などの情報活用能力を身につける。 (2) みずから課題を見つけ，解決していく能力を身につける。 (3) 情報を主体的に活用し，情報社会に主体的に参加する態度を身につける。 (4) コンピュータの特性や情報通信ネットワークのしくみなどの基礎知識を習得する。
授業の進め方，学習方法	各章ごとに教科書とサポートノートを用いて基本となる考え方や方法を概観しながら，手作業による実習，そしてコンピュータを用いた実習でそれらを体得し，理解を深めていく。実習には個人で行うものの他に，グループで協力し合って行うものも含まれている。 レポート作成やプレゼンテーションなどパフォーマンス課題を各学期ごとに実施する。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	序編　情報とメディア 第1章　情報とは 第2章　メディアとは 第3章　情報のディジタル化 第4章　インターネットの活用 第4編　情報社会と情報モラル 第1章　情報システムと人間 第2章　情報社会の光と影 第3章　情報セキュリティの確保 第4章　情報社会における法と個人の責任	・「情報」とは何かを学ぶ ・情報の収集，評価，判断が常に身近で行われていることを知り，情報の受信時に配慮すべき事項を学習する。 ・情報の特徴とメディアの意味について学習する ・アナログとディジタルの違いとそれぞれの特徴を学習する ・情報格差，ネット依存症，ネット上のトラブルや，詐欺などの犯罪の実態を学び，情報化が社会に及ぼす影響について学習する ・社会における情報システムの種類や特徴を学ぶ ・情報モラルをテーマに各自で調査を行い，その結果をレポートにまとめる ・情報社会の問題点を踏まえ，情報セキュリティの重要性を知るとともに，情報セキュリティを高めるための方法を学習する ・著作権と産業財産権の保護の必要性を学ぶとともに，そのために必要な法規及び個人の責任について学習する。	【関心・意欲・態度】 情報社会を支える情報や情報技術の役割や影響に関心をもち，身のまわりの問題を解決するために，情報及び情報技術を活用しようとしている。 【思考・判断・表現】 身のまわりの問題を解決するために情報及び情報技術を活用することについて，科学的な考え方を生かし，思考を深め，適切に判断し表現している。 【技能】 情報の収集・選択・処理を適切に行うとともに，情報を目的に応じて表現する。 【知識・理解】 情報及び情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための知識を身につけ，情報社会を支える情報と情報技術の役割や影響を理解している。
	1学期期末考査		
2学期	第3編　問題解決とコンピュータ 第1章　問題解決 第2章　問題解決と処理手順の自動化 第3章　データベース 序編　情報とメディア 第3章　情報のディジタル化 第1編　コンピュータとディジタル情報 第1章　コンピュータのしくみ 第2章　情報のディジタル表現	・問題の発見，明確化，分析及び解決の方法について学習する ・身近なテーマをもとに，問題の発見，明確化，分析及び解決案を提案する実習をおこなう。また，解決案の発表を通じて，プレゼンテーションの方法について学習する ・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を学習する ・コンピュータによる処理手順の自動実行の有用性を学習する ・アナログとディジタルの違いとそれぞれの特徴を学習する ・情報をディジタル化し，処理するうえで基礎となるコンピュータの基本的なしくみを学習する ・情報のディジタル化の基礎的な知識と技術として，ビットの概念，2進数による表現，情報量，文字，音，画像，動画のディジタル化の原理と表現方法について学習する ・ディジタル情報の圧縮の原理と具体例について学習する	【関心・意欲・態度】 情報社会を支える情報や情報技術の役割や影響に関心をもち，身のまわりの問題を解決するために，情報及び情報技術を活用しようとしている。 【思考・判断・表現】 身のまわりの問題を解決するために情報及び情報技術を活用することについて，科学的な考え方を生かし，思考を深め，適切に判断し表現している。 【技能】 情報の収集・選択・処理を適切に行うとともに，情報を目的に応じて表現する。 【知識・理解】 情報及び情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための知識を身につけ，情報社会を支える情報と情報技術の役割や影響を理解している。
	2学期期末考査		
3学期	第3編　問題解決とコンピュータ 第1章　問題解決 第2編　情報通信ネットワーク 第1章　コミュニケーション手段の発達 第2章　インターネットのしくみ	・自分たちのスマートフォンの利用時間やその使い方の内容についてデータを集め，分析をして，結果をまとめるとともに改善案を提案する問題解決実習を行う ・データ分析の手法や，まとめ方，グラフの使い分けについて学習する ・古代からの自技術的な進歩を概観し，コミュニケーション手段の発達について学習する ・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルについて学習する	【関心・意欲・態度】 情報社会を支える情報や情報技術の役割や影響に関心をもち，身のまわりの問題を解決するために，情報及び情報技術を活用しようとしている。 【思考・判断・表現】 身のまわりの問題を解決するために情報及び情報技術を活用することについて，科学的な考え方を生かし，思考を深め，適切に判断し表現している。 【技能】 情報の収集・選択・処理を適切に行うとともに，情報を目的に応じて表現する。 【知識・理解】 情報及び情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための知識を身につけ，情報社会を支える情報と情報技術の役割や影響を理解している。
	学年末考査		

成績評価方法	授業態度　・　発問評価　・　定期考査　・　レポート課題　・　プレゼンテーションをもとに評価の観点にもとづいて総合的に評価する。

教　科	学校設定科目	科　目	探究	学年・類型	2年生・人文数理 探究類型	履修形態	必履修	授業時数	週3時間

使用教科書	無
副教材等	課題研究メソッド（啓林館）等

学習目標	アカデミックな内容を論理的に伝えるプレゼンテーションの技法を身につける。 検証可能な問いを立てることができるようになる。仮説の検証のために適切な手法を選択できるようになる。結果について論理的な分析ができるようになる。
授業の進め方，学習方法	A)数回（グループ・個人）のプレゼンテーションを準備しながら，アカデミックな英語プレゼンテーションに必要な要素を理解し，身につけていく。 B)3～4名のグループで，それぞれの班ごとにテーマを見つけ，探究に取り組む。授業ごとの目標ややるべきことをメンバーで共有しながら進める。 必要に応じて研究者や専門家の指導を受ける。 自分たちで実験や調査の計画を立てて実施する。

学　習　計　画

学　期	単　元	学　習　内　容	評価の観点
1学期	研究計画 予備実験 グループプレゼン	文理合同で構想発表会を開催する。 予備実験や先行研究の調査等を進めて仮説を精緻化する。 英語プレゼンテーションの計画の仕方	検証可能な仮説を立てることができているか。 探究テーマを先行研究に照らし合わせて理解できているか。 聞き手を理解したうえで，情報を取捨選択しているか。 論理的に組み立てることができているか。 わかりやすいスライドを作成しているか。
	実験・調査活動 先行研究 ヒアリング	研究計画を立てるために予備調査や実験を行う。 テーマについて必要な基礎学習や，先行研究についての情報を集める。	適切なデータ収集の方法を選択できているか。 検証可能な実験デザインができているか。
	インタビューテスト　（英語）	プレゼンテーションした内容について英語で受け答えができる。	
2学期	中間発表　（文理合同） 個人プレゼン 論理的な文書の書き方	研究の構想と見通し，さらには進捗状況を報告し，助言指導を受ける。 グラフや数値の説明の仕方 論理的な文章を書くことによって，思考を整理し，読者にも伝わりやすい情報の提示ができることを学ぶ。	必要なデータは何かを理解しているか。 論理的な道筋が見えているか。 独創性のある取り組みであるか。
	外部でのポスター発表 統計入門	ポスター作成の仕方 データの扱い方について基本的な知識を得る。	データの取捨選択ができているか。 わかりやすい組み立てになっているか。 アカデミックなポスターの要件を満たしているか。
	インタビューテスト　（英語）		
3学期	探究活動 3MT	実験・データ収集・分析 3分間で自分の探究内容について英語で伝える。スライドは1枚。	必要なデータはそろっているか。 データの信頼性について検証できているか。 限界が自覚できているか。 探究の内容を論理的に伝えることができる。 効果的な視覚資料の提示ができるか。
	インタビューテスト　（英語）		

成績評価方法	A）インタビュー・プレゼンのパフォーマンスを点数化する B）ルーブリック評価